

## 管理栄養学科 シラバス目次

3年前期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
1年～4年	66	スポーツ・リクリエーション	CH103
3年前期	104	保健・福祉概論	NU503
3年前期	112	栄養生化学実験Ⅱ	NM504
3年前期	118	解剖生理学実験	NM507
3年前期	122	病理学Ⅱ	NM509
3年前期	134	食品学実験	NF505
3年前期	138	食品衛生学	NF507
3年前期	166	応用栄養学Ⅲ	NA503
3年前期	184	臨床栄養学Ⅱ	NC502
3年前期	186	臨床栄養学実習Ⅰ	NC503
3年前期	190	臨床栄養カウンセリング論	NC505
3年前期	198	公衆栄養学Ⅱ	NP502
3年前期	204	給食経営管理論	NL502
3年前期	208	給食経営管理実習Ⅱ	NL504
3年通年	210	総合演習Ⅰ	NG501
3年前期	214	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	NO501
3年前期	216	臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）	NO502
3年通年	220	臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）	NO504
3年前期	248	特別支援教育	EF501
3年前期	258	教育相談の理論と方法	EM501
2年～3年	270	学校ボランティア(学外活動)	EV301

# スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1-4年・前～後期  
 担当者氏名 膳法 浩史

## ◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

## ◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる(60分)
			復習 会場までの道順を調べる(30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる(30分)
			復習 議論した内容をまとめる(60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える(60分)
			復習 提案した内容をまとめる(60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる(60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる(30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える(60分)
			復習 提案内容をまとめる(30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する(60分)
			復習 流れを再確認する(30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する(30分)
			復習 担当と流れを再確認する(60分)

14	レクリエーションイベント運営①	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)
15	レクリエーションイベント運営②	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)

※過去のウォーキングラリー： 2022年度 神田万世橋、2021年度 学内、2020年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目  
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6号館2階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05.ac.jp) で対応する。

# 保健・福祉概論 (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期  
 担当者氏名 勝部 雅史

## ◆授業概要

社会福祉の歴史や実践の基礎理解を通じて、現代社会と社会福祉の関連、「生活者」という視点から多様な分野の福祉政策について考察することを目的とします。社会保障体系における福祉の位置づけ、慈善事業と社会福祉のちがひ、福祉国家の成立と展開、福祉ニーズとは何か、社会における排除と包摂、ソーシャルワークの実践技術、現代の社会福祉における「公正」「連帯」など、各テーマで具体的事例を交えて講義します。

## ◆到達目標

1. 現代社会における社会福祉・社会保障・保健医療の概要を説明できる。
2. 社会福祉における「再分配」「福祉ニーズ」「対人社会サービス」の考え方を説明できる。
3. 管理栄養士国家試験受験に向けて、社会福祉・社会保障・保健医療の基礎知識を習得する。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	社会福祉とその範囲	(ガイダンス) 社会福祉概念の整理, 社会福祉の課題	予習 本科目シラバスの読解 (30分)
			復習 講義資料の理解 (90分)
2	社会福祉と関連施策	社会保障体系における福祉・公衆衛生	予習 テキスト該当ページ事前学習 (40分)
			復習 補足資料の理解 (80分)
3	わが国の社会福祉の歴史的展開 (1)	前近代: 慈善事業の時代, 近代: 封建的秩序の崩壊と生活の「自己責任」	予習 テキスト該当ページ事前学習 (60分)
			復習 補足資料の理解 (60分)
4	わが国の社会福祉の歴史的展開 (2)	20世紀初頭の社会保障: 感化救済事業の時代, 社会事業の時代: 方面委員など	予習 現在の主な福祉制度を検索 (60分)
			復習 補足資料の理解 (60分)
5	イギリスの社会福祉の歴史的展開 (1)	救貧法の成立と改正, 社会調査の意義: ラウントリーの「栄養計算」	予習 テキスト該当ページ事前学習 (40分)
			復習 日本との展開の違いをまとめる① (80分)
6	イギリスの社会福祉の歴史的展開 (2)	福祉国家建設の基礎「ベヴァリッジ報告」, イギリスの医療: NHS 制度	予習 テキスト該当ページ事前学習 (40分)
			復習 日本との展開の違いをまとめる② (80分)
7	社会福祉の対象把握	社会福祉が対象とする問題, 福祉ニーズの基礎としての衣・食・住	予習 福祉の歴史を踏まえた課題の理解 (40分)
			復習 生存と栄養との関連を調べる (80分)
8	ソーシャルワークの定義・倫理綱領	ソーシャルワークの定義と倫理, 社会福祉の学際性	予習 1~7回講義総括 (100分)
			復習 学際性の理解 (20分)
9	社会福祉援助とステイグマ	援助対象は「特定の人」か「特定の問題」か? 普遍主義と選別主義	予習 偏見・差別と福祉の関わり (30分)
			復習 普遍主義と選別主義のまとめ (90分)
10	貧困の「再発見」と相対的剥奪	「豊かな社会」における貧困の“再発見”, 現代日本の「子ども」の生活分析	予習 貧困がもたらす影響のまとめ (30分)
			復習 教育と貧困の関連性の理解 (90分)
11	社会的排除と社会的包摂	社会における「排除」と「包摂」, 障害者福祉の歴史と事例	予習 EUで問題化された「排除」 (40分)
			復習 排除を受けやすい対象の理解 (80分)
12	社会的包摂への取り組み	映像資料に関するレポート作成・提出	予習 教材の背景の理解 (30分)
			復習 包摂に向けた整理・検討 (90分)
13	ソーシャルワークの基本理論と実践技術	ソーシャルワークの基本理論, 実践レベル (マイクロ・メゾ・マクロ)	予習 前回の復習 (30分)
			復習 レポートふりかえり (90分)
14	コンセンサス・ワーク	任意のグループでディスカッション, 集団決定 (コンセンサス) の考察	予習 ソーシャルワークの意義の総括 (60分)
			復習 福祉援助におけるコンセンサス (60分)

15	社会福祉の思想と哲学	「連帯」の理念, 社会福祉の終着価値	予習 8~15回講義総括 (30分)
			復習 定期試験範囲の学習 (90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
よくわかる社会福祉	山縣文治・岡田忠克 編	ミネルヴァ書房

◆参考書

書名	著者	発行所
社会福祉をつかむ 改訂版	稲沢公一・岩崎晋也	有斐閣
社会福祉小六法 2024	ミネルヴァ書房編集部	ミネルヴァ書房

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	70	中間試験	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- レポート (授業内で解説を行う)
- 定期試験 (模範解答を配布する)

◆受講上の注意事項及び助言

- 下記科目を履修していることが望ましいが、未履修でも問題ありません
- ・共通科目「経済学」「社会学」
  - ・専門科目「公衆衛生学」

◆オフィスアワー

- 受付時間: 講義前後の時間帯  
 受付場所: 学務課 講師控室にて  
 上記で対応できない場合: 質問・相談などメールで随時対応します

# 栄養生化学実験 II

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 福田 亨

## ◆授業概要

栄養生化学実験 I から引き続き生体成分と生命現象（代謝）に関連した実験を行う。各種実験を行うことで、生化学・栄養学で学習した内容について理解を深める。

## ◆到達目標

1. 化学実験の基礎的な手技を習得すると共に実験の基本原則を理解することができる
2. 実験レポートの作成を通じ実験結果を適切に評価する思考力を身につけることができる
3. 生化学の講義で学んだ内容を実験を通して理解することができる

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	オリエンテーション	実験を行う上での注意、レポートの書き方、評価法について	予習 シラバスを読み、実験内容を確認する (20分)
			復習 配布テキストの内容を確認し、各実験法を調べる (60分)
2	消化実験 (1)	消化および消化実験の理解 (講義)	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 小腸における栄養素の能動輸送についてまとめる (60分)
3	消化実験 (2)	ラットの反転腸管を用いた実験	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 実験ノートに目的・方法および実験結果をまとめる (60分)
4	消化実験 (3)	タンパク質消化量の定量	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 結果を基に消化実験のレポートを作成する (60分)
5	呼気分析	呼気分析の概略を説明し動作ごとに演習を行う	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 エネルギー消費量についてまとめる (40分)
6	エネルギー消費量	1日の活動量調査からエネルギー消費量を算出する	予習 1日24時間の生活時間調査を行う (20分)
			復習 調査結果をまとめる (60分)
7	エネルギー代謝に関する実験 (1)	酵母を用いてグルコースからピルビン酸生成の確認 (試薬調製)	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 試薬調製にともなう計算式の確認を行う (60分)
8	エネルギー代謝に関する実験 (2)	酵母を用いてグルコースからピルビン酸生成の確認 (実験)	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 結果を基にエネルギー代謝に関する実験のレポートを作成する (60分)
9	核酸に関する実験 (1)	口腔粘膜細胞からのゲノム DNA 抽出	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 細胞中の DNA、遺伝子についてまとめる (60分)
10	核酸に関する実験 (2)	ゲノム DNA を用いた PCR の実践	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 PCR の原理とその利用法についてまとめる (60分)
11	核酸に関する実験 (3)	PCR 産物の電気泳動と遺伝子型の確認	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 結果を基に核酸に関する実験のレポートを作成する (60分)
12	タンパク質に関する実験 (1)	組織からのタンパク質抽出	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 体内でのグリコーゲン代謝・糖新生についてまとめる (60分)
13	タンパク質に関する実験 (2)	SDS-PAGE によるタンパク質の分画	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 電気泳動の原理についてまとめる (60分)
14	タンパク質に関する実験 (3)	Western blot による目的タンパク質の検出	予習 テキストの該当箇所を熟読し実験原理・方法を確認する (20分)
			復習 結果を基にタンパク質に関する実験のレポートを作成する (60分)
15	まとめ	電気泳動実験の解析	予習 全てのレポート内容を確認する (120分)
			復習 講義内容とレポートを活用し、まとめのノートを作成する (60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
初回授業時に配布		

◆参考書

書名	著者	発行所
栄養科学イラストレイテッド 生化学 改訂第3版	藺田勝／編	羊土社
栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学 第3版	田地陽一／編	羊土社

◆関連科目

栄養生化学、栄養学、栄養学実験、臨床栄養学、応用栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

補足) 全ての実験レポートの提出を必須とする (再提出も含む)。

授業期間内に**未提出レポートがあるものは再履修**とします。

実験に参加が認められない場合は、取り組む姿勢・意欲がないものと見なす場合がある。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

提出した実験レポートは内容を確認し、次回授業時に返却。内容不備のレポートについては修正後、再提出。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・ 積極的に実験に参加すること
- ・ 不明な点は必ず質問すること
- ・ レポートは期限までに提出すること。提出期限に遅れたレポートの評価は行わない
- ・ グループ単位で実験を行うので、必ず出席をすること

◆オフィスアワー

受付時間： 授業時間以外 9:00～17:00

受付場所： 食品生化学研究室 (7号館 2F)

上記で対応できない場合： E-mail にて対応



# 解剖生理学実験

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 黒田 範行

## ◆授業概要

管理栄養士には、解剖生理学、生化学、病理学のような基礎医学を十分に身につけ、症例ごとに生体機能を考え、それぞれに対応できる能力が要求される。解剖生理学実験では、次のような実験を行う。  
1) 人体模型を観察してその構造と機能を学ぶ。2) 臓器の組織標本を顕微鏡観察する。3) ラットの解剖を行い、器官の関係をつかむ。4) 血液に関する実験を行い、循環器機能を学ぶ。5) 味覚の実験や唾液の実験で消化機能を学ぶ。6) 身体計測を行い、栄養状態を判定する。

## ◆到達目標

1. 人体及びラットの臓器の構造と機能を説明できる。
2. 胃、腎臓、肝臓、小腸、大腸、膵臓の組織像について判別し、機能を説明できる。
3. 循環器、呼吸器機能などをお互いに正しく計測しあうことができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	解剖生理学実験について	人体の構成について概説し、実験授業の進め方を説明する。	予習：解剖生理学の講義の教科書を確認しておく (30分) 復習：授業で行っていく実験について理解し、準備を行う (60分)
2	全身模型の観察	内臓の位置、形を観察し、全体像をとらえる。	予習：p9~13 をよく読み骨格系、筋系について予習しておく (30分) 復習：内臓の位置、形に関する演習問題を解く (60分)
3	臓器模型の観察	器官系のつながりをとらえる。	予習：p14~16 をよく読み呼吸器系、消化器系、泌尿器系のつながりについて予習しておく (30分) 復習：器官系のつながりに関する演習問題を解く (60分)
4	組織観察 1	胃、小腸、回腸の粘膜構造を観察する。	予習：p14, 35 をよく読み、消化器系臓器の位置、構造および働きを予習しておく (30分) 復習：消化器系に関する演習問題を解く (60分)
5	組織観察 2	肝臓、膵臓、腎臓の特徴的な組織を観察する。	予習：p14, 35 をよく読み、各臓器の位置、構造および働きを予習しておく (30分) 復習：肝臓、膵臓、腎臓に関する演習問題を解く (60分)
6	ラットの解剖 1	内臓の構造や機能が似ているラットの体幹部を解剖する。	予習：p33~39 をよく読み、解剖の目的、方法、観察の仕方を理解しておく (30分) 復習：解剖の方法、解剖後の外観などスケッチを行い記録に残す (60分)
7	ラットの解剖 2	前回一部臓器を固定しておいたものを観察する。	予習：p33~39 をよく読み、摘出した臓器の構造や働きを予習する (30分) 復習：各臓器の働きに関する演習問題を解く (60分)
8	血液の一般的性状 1	ラットの血液中の赤血球数を計測する。	予習：p47~49 をよく読み、赤血球の計測法について予習する (30分) 復習：赤血球に関する演習問題を解く (60分)
9	血液の一般的性状 2	ラットの血液中のヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値を求める。	予習：p56~57 をよく読みヘモグロビン濃度とヘマトクリット値の測定法を予習しておく (30分) 復習：ヘモグロビン、ヘマトクリットに関する演習問題を解く (60分)
10	血液の一般的性状 3	標本を用い、ヒトの血液中の白血球を分類する。	予習：p47 をよく読み、白血球の形態、数、機能について予習する (30分) 復習：白血球に関する演習問題を解く (60分)
11	まとめ・中間試験	解剖学的実験についてまとめる(中間試験)。	予習：第1~8回までに実施した解剖学の復習を行っておく (30分) 復習：中間試験で解答できなかった問題の復習を行う (60分)
12	唾液の消化実験	唾液アミラーゼによるでんぷんの消化実験を行う。	予習 p83~87 をよく読み、消化実験について予習する (30分) 復習 消化についての演習問題を解く (60分)



13	感覚に関する実験	味の違いや濃度による味覚の強さ、味の対比効果について実験する。	予習:p113をよく読み、味覚について予習する(30分) 復習:味覚に関する演習問題を解く(60分)
14	身体計測	お互いに計測しあい体格指数などを求める。	予習:p21~32をよく読み、身体観察と計測法について予習する(30分) 復習:身体計測による栄養判定についての演習問題を解く(60分)
15	循環器に関する実験	安静時、運動負荷後などの血圧、脈拍、体温などを測定する。	予習:p63-65,71~73,78をよく読み、循環器について予習する(30分) 復習:循環器に関する演習問題を解く(60分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
イラスト解剖生理学実験	青峰正裕、他	東京教学社

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
人体の構造と機能	佐藤昭夫 佐伯由香 原田玲子	医歯薬出版

#### ◆関連科目

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	中間テスト	10
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

レポートを出すことで実験は完結する。従って、レポートが未提出の場合は、再履修となる。(再提出の指示があるのに未提出の場合を含む)

提出されたレポートは、誤字・脱字がなく、体裁が整っており、個人の主張が論理的かつ明確に記述されているかについて達成度を確認する。レポートの達成度は3段階(2点,1点,0点)で評価する。

学習に取り組む姿勢・意欲の評価に欠席回数と遅刻回数を加味する。

#### ◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

レポートおよび中間テストは評価をつけ、返却時に解説を行う。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

- ・欠席・遅刻をしないこと。
- ・理解できないところ、不明な点は、積極的に質問すること。

#### ◆オフィスアワー

受付時間: 実験終了後

受付場所: 新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること

上記で対応できない場合: 電子メールにて対応するので kuroda-n@tsurumi-u.ac.jp まで連絡すること。

## 病理学Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期  
担当者氏名 正田 良介

### ◆授業概要

「病理学Ⅰ」の履修を前提に、管理栄養士に必要な疾患の知識を学ぶことを目的とする。臓器別に主要な疾患の概念、疫学、病態・病理、症状、検査、診断、治療法などを、管理栄養士の実務を踏まえて講義する。「病理学Ⅱ」では、各論として循環器系、運動器系、消化器系、代謝系、生殖系、診断学、治療学の分野について学ぶ。各講義前半 1/3 程度は前回講義のまとめの内容とし、理解の促進と前回欠席者のスムーズな参加を促すようにしている。

### ◆到達目標

1. 頻度の高い疾患の概念、疫学、病因、病状について説明できる。
2. 頻度の高い疾患の診断方法、治療法についてその概要を説明できる。
3. 疾患に関する診断・治療の概念を説明できる。

### ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	循環器系①	虚血・充血・うっ血、血栓、塞栓、動脈硬化、高血圧	予習 教科書 (Ⅱ) 6章 B-a, b, c, d (20分)
			復習 循環器系①の内容、内容とは教科書の事項と講義の重要点 (配付資料) で以下同様 (15分)
2	循環器系②	狭心症、心筋梗塞、不整脈、心不全	予習 教科書 (Ⅱ) 6章 B-e, f, h (20分)
			復習 循環器系②の内容 (15分)
3	運動器系	骨粗鬆症、骨軟化症・くる病、変形性関節症、サルコペニア・廃用性筋萎縮	予習 教科書 (Ⅱ) 11章 B (20分)
			復習 運動器系の内容 (15分)
4	消化器系①	上部消化管疾患 (悪性腫瘍除く)	予習 教科書 (Ⅱ) 5章 B-a, b, c, d (20分)
			復習 消化器系①の内容 (15分)
5	消化器系②	下部消化管疾患 (悪性腫瘍除く)	予習 教科書 (Ⅱ) 5章 B-e, f, g, n (20分)
			復習 消化器系②の内容 (15分)
6	消化器系③	肝・胆・膵疾患 (悪性腫瘍除く)	予習 教科書 (Ⅱ) 5章 B-h, I, j, k, l (20分)
			復習 消化器系③の内容 (15分)
7	消化器系④	消化器系の悪性腫瘍	予習 教科書 (Ⅱ) 5章 B-m (20分)
			復習 消化器系④の内容 (15分)
8	代謝系①	インスリン抵抗性にかかわるホルモン、栄養障害、肥満、メタボリックシンドローム、先天性代謝異常	予習 教科書 (Ⅰ) 4章 A-a、Ⅱ) 4章 B、C-a, D (20分)
			復習 代謝系①の内容 (15分)
9	代謝系②	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症	予習 教科書 (Ⅰ) 2章 C-a, b, c, 4章 B、C-a, b, c, d; (Ⅱ) 4章 C-b, c, d, 8章 A-f (20分)
			復習 代謝系②の内容 (15分)
10	生殖系	前立腺肥大、前立腺がん、乳がん、子宮頸がん、子宮体がん、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病	予習 教科書 (Ⅱ) 12章 A-b, d, B-b, c (20分)
			復習 生殖系の内容 (15分)
11	診断①	病歴聴取、診察、バイタルサイン、主な症候①	予習 教科書 (Ⅱ) 2章 A-a, b (20分)
			復習 診断①の内容 (15分)
12	診断②	主な症候②	予習 教科書 (Ⅱ) 2章 A-c (20分)
			復習 診断②の内容 (15分)
13	診断③	臨床検査	予習 教科書 (Ⅱ) 2章 B (20分)
			復習 診断③の内容 (15分)

14	治療①	種類、治療計画、食事・運動療法、薬物療法、輸液・輸血・血液浄化	予習 教科書(Ⅱ) 3章 A、B-a, b, c, d (20分)
			復習 治療①の内容 (15分)
15	治療②	手術、移植、放射線治療、リハビリテーション、再生医療、救急救命医療、緩和ケア、終末期医療、尊厳死	予習 教科書(Ⅱ) 3章 B-e, f, g, h, I, j, k, l, m (20分)
			復習 治療②の内容 (15分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
人体の構造と機能及び疾患の成り立ち (Ⅰ)、(Ⅱ)	(Ⅰ) 佐々木康人、園田勝、細川優 (Ⅱ) 加藤昌彦、近藤和雄、箱田雅之、井階幸一	第一出版

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
なるほどなっとく病理学プラス	小林正伸	南山堂
栄養科学イラストレイティド 臨床医学 疾病の成り立ち	田中明、藤岡由夫 (編)	羊土社

#### ◆関連科目

解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、病理学Ⅰ

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	70	小テスト	
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足) 定期試験の成績を基本とするが、出席状況を含む授業へ参加する姿勢が良好な場合には評価する。正当な理由がある欠席に関しては考慮する。本科目の学習に当たり、学生としての一般的な予習・復習を行い、授業中にノートを取るなどしながらきちんと聴講すれば、十分な評価は得られる。特に、短時間でも良いので授業後に教科書や配付資料をもとに復習をすることは効果的である。細かい知識の習得も不要というわけではないが、解剖生理学の基礎とともに疾病概念の枠組みや相対的な関連が理解できていると、将来の資格試験や実際に職業に就いた際に自ら学ぶことがより楽しくできるようになる可能性が高くなる。

#### ◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

授業後の質疑応答やフィードバック授業などで行う。また、可能な範囲で研究室での質疑応答は行いたいと考えている (オフィスアワー参照)。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士は、「病をもつ人」の栄養管理をすることが許される国家資格です。資格を持たない人にはそれができないと言うことです。栄養のことをきちんと学ぶことは当然ですが、「病をもつ人」の理解も必要不可欠です。正常人の身体の構造と機能を学ぶのが「解剖生理学Ⅰ・Ⅱ」であり、それに基づいて、病気のことを学ぶのが「病理学Ⅰ・Ⅱ」です。就業して、患者さんをはじめ、多くの医療関係の職種とチームを組んで仕事をする際の共通言語としても、解剖生理学や病理学は必要です。多くの時間を割く必要はありませんが、予習をすることで講義の理解が容易になり、復習をすることで正確な名称や機能が確認できるようになります。この授業で講義されるのは、管理栄養士の実務上、頻繁に対象となる疾患です。疾患の正しい知識は適切な対応のために不可欠です。解剖生理学、病理学Ⅰで学んだ基礎をふり振り返りながら、病態・病理を中心に理解を深めることが望まれます。

#### ◆オフィスアワー 詳細は授業中に指示する。

受付時間： 月曜または水曜の 16:15-17:00、及び金曜日 12:00-12:30 (変更の可能性あり)

受付場所： 解剖生理学第一研究室

上記で対応できない場合：各講義時間終了後、必要に応じて相談に対応する。

# 食品学実験 (1単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期  
 担当者氏名 折口 いづみ

## ◆授業概要

食品に含まれる水分、灰分、脂質、タンパク質の含有量を、食品成分表の公定法を用いて測定し、食品分析の基礎知識と技術を習得する。さらに食品成分の特性とその変化についても実験を行い、食品成分の化学変化についても理解を深める。

最終回には実験項目ごとに班の担当を決め、学生による発表を行う。

## ◆到達目標

1. 食品成分表に記載されている各成分値の公定法を理解し、算出方法が説明できる。
2. 食品成分の特性とその変化について説明できる。
3. 食品学実験の基本的操作を習得する。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	食品学実験の概要	食品学実験の概要、食品成分表について	予習 教科書 1-5 頁を読み、実験の注意と基本操作について確認する(60分)
			復習 食品成分の公定法について調べる(60分)
2	糖質の定性	代表的な定性試験を用いて、単糖、二糖、多糖類の識別を行なう	予習 教科書 37-42 頁を読み、単糖、二糖類について調べる(60分)
			復習 糖の定性反応原理を理解する(60分)
3	タンパク質の定性	代表的な定性試験を用いて、アミノ酸、タンパク質の識別を行なう	予習 教科書 47-49 頁を読み、タンパク質を構成するアミノ酸について調べる(60分)
			復習 アミノ酸の定性反応原理を理解する(60分)
4	水分の定量	常圧加熱乾燥法による水分の定量	予習 教科書 57-59 頁を読み、水分の公定法を調べる(60分)
			復習 水の定量法について理解する(60分)
5	粗灰分の定量	直接灰化法による粗灰分の定量	予習 教科書 81-82 頁を読み、粗灰分の公定法を調べる(60分)
			復習 灰分の定量法を理解する(60分)
6	粗タンパク質の定量 (1)	ケルダール法による粗タンパク質の定量：分解	予習 教科書 60,64-66 頁をよく読み、タンパク質の公定法について調べる(60分)
			復習 酸化分解を理解する(60分)
7	粗タンパク質の定量 (2)	ケルダール法による粗タンパク質の定量：蒸留	予習 前回の実験内容を実験ノートでよく確認し、ケルダール法を調べる(60分)
			復習 中和、蒸留操作を理解する(60分)
8	粗脂肪の定量 (1)	ソックスレー抽出法による粗脂肪の定量①	予習 教科書 68-69 頁をよく読み、粗脂肪の公定法を調べる(60分)
			復習 粗脂肪の定量法を理解する(60分)
9	粗脂肪の定量 (2)	ソックスレー抽出法による粗脂肪の定量②	予習 前回の実験内容を実験ノートでよく確認し、ソックスレー法の原理を調べる(60分)
			復習 ソックスレー法を理解する(60分)
10	食塩の定量	沈殿滴定法を用いた NaCl の定量	予習 教科書 19-20 頁をよく読み、食塩の定量法を調べる(60分)
			復習 沈殿滴定法を理解する(60分)
11	油脂のケン化価	油脂のケン化価を求める	予習 教科書 121 頁をよく読み、ケン化について調べる(60分)
			復習 油脂のケン化価の違いを理解する(60分)
12	油脂のヨウ素価	油脂のヨウ素価を求める	予習 教科書 122-123 頁をよく読み、飽和、不飽和脂肪酸について調べる(60分)
			復習 油脂のヨウ素価の違いを理解する(60分)
13	比色分析	タンパク質の比色分析法	予習 比色分析法を調べる(60分)
			復習 ビウレット法を理解する(60分)

14	実験結果のまとめ	実験結果のまとめと発表準備	予習 担当テーマの実験結果を確認し、 実験ノートおよび教科書を熟読する。(60分) 復習 各班で担当テーマについて資料を作成し、 発表の準備をする(60分)
15	実験結果の発表	各班による発表と実験まとめ	予習 発表内容の確認を行う(90分) 復習 各班の発表と実験のまとめから食品学実験 で行った実験について理解を深める(90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
新しい食品学実験 第4版	吉田 勉 監修	三共出版

◆参考書

書名	著者	発行所
八訂 食品成分表	香川明夫監修	女子栄養大学出版部
日本食品標準成分表 2020年版 (八訂) 分析マニュアル・解説	文部科学省科学技術・学術政策局政 策課資源室 (監修)	建帛社
日本食品成分表 2020年版 (八訂)	文部科学省科学技術・学術審議会資 源調査分科会報告	全国官報販売協同組合

◆関連科目

生化学、食品学総論Ⅰ・Ⅱ、食品学各論Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) レポートは、その記述内容から論理性、正確性などを考慮し、段階的に評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートは添削、採点をして返却をする。返却時に指導する。

◆受講上の注意事項及び助言

食品成分の定量を主としているので、食品の一般成分についてよく理解をしておいてほしい。  
各自実験ノートを用意し、それをもとにレポートの作成に取り組むこと。

◆オフィスアワー

受付時間：授業時間外の9:00～17:00

受付場所：食品学第一研究室 (1号館2階)

上記で対応できない場合：電子メール(origuchi-i@tsc-05.ac.jp)で質問を受け付けます。



# 食品衛生学 (2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
 担当者氏名 星野浩子

## ◆授業概要

食の安全性への関心から食品衛生はますます重要視されており、食を取り巻く環境は日々変化し、多くの知識を習得することが求められている。食品衛生学は飲食物に起因する健康危害を未然に防止するための科学的論拠を学ぶことを目的としている。食品衛生法や食品衛生行政を学び、次いで、食中毒の原因物質である細菌、ウイルス、化学物質、自然毒、寄生虫、容器包装からの有害物質、残留農薬、食品添加物などについて解説する。

## ◆到達目標

1. 日本および世界の食品衛生政策とその仕組みを把握できる。
2. 食品の安全性を総合的にマネジメントできる。
3. 食品の安全性に影響する要因を分析・評価し、適切な改善点や対策方法を挙げることができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	食品衛生と法規	食品の安全確保に関するわが国の行政制度と国際機関について解説する。	予習 教科書 P1~7 をよく読み、身近な衛生法規についての話題を探す (60分) 復習 食品安全行政の仕組み、食品衛生法規、コーデックス委員会について復習する (60分)
2	微生物の基礎	微生物は、食中毒や経口感染症と関わりがある。微生物の形態、増殖特性について解説する。	予習 教科書を p9~15 をよく読み、微生物学の形態、細菌の形態について知る (60分) 復習 細菌の増殖条件について復習する (60分)
3	食品の変質	食品の腐敗・変質について解説し、その予防法についても解説する。	予習 生活する中で体験した食品の腐敗現象を書き出してみる (60分) 復習 腐敗変敗の測定法や予防法を復習する (60分)
4	食中毒の発生と予防	食中毒の発生状況と予防法について解説する。	予習 最近発生した食中毒のニュースを調べておく。教科書39~45まで読んでおく。(60分) 復習 わが国での食中毒の発生状況を理解する (60分)
5	食中毒 微生物①	細菌性食中毒(感染型)の原因、症状、予防を解説する。	予習 感染型食中毒とはどんな食中毒か、教科書 p.46~55 を読んでおく (60分) 復習 感染型食中毒の種類と特徴について復習する (60分)
6	食中毒 微生物②	細菌性食中毒(毒素型)とウイルス性食中毒の原因、症状、予防を解説する。	予習 毒素型食中毒とウイルス性食中毒とはどんな食中毒か教科書 p.55~60まで読んでおく(60分) 復習 毒素型食中毒とウイルス性食中毒の種類と特徴についてまとめる (60分)
7	自然毒による食中毒	動物性自然毒、植物性自然毒を含む食品と予防法を解説する。	予習 自然毒による食中毒の記事を集める。教科書 p.60~68 を読んでおく (60分) 復習 自然毒の種類と予防法について理解する (60分)
8	食品による感染症・寄生虫症	人畜共通感染症と食品から感染する寄生虫症の原因食品と予防法を解説する。	予習 寄生虫の写真や話題をインターネットで検索する (60分) 復習 寄生虫の原因食品と予防法についてノートにまとめる (60分)
9	食品中の有害物質	かび毒、放射性物質、変質した食品成分と有害物質、異物混入について解説する。これらの化学物質の人体への影響も解説する。	予習 過去に発生した化学物質による事故について調べておく (60分) 復習 化学物質によりどのような疾病が発生するか理解する (60分)
10	食品添加物の安全性と表示	食品添加物の指定条件を解説する。	予習 食品添加物に関する記事を集める。教科書 p.118~135 を読む (60分) 復習 食品添加物の安全性評価について復習する (60分)
11	食品添加物の種類と用途	食品添加物の長所、短所とその必要性を解説する。	予習 食品添加物にはどんな種類のものがあるか調べる (60分) 復習 食品添加物の分類法をノートにまとめる (60分)
12	食品衛生管理	衛生管理の基本と HACCP および残留農薬のポジティブリストについて解説する。	予習 集団調理での衛生管理や家庭で行っている衛生管理について記録してみる (60分) 復習 HACCP や食品工場による衛生管理、家庭における衛生管理を整理して理解する (60分)

13	器具と容器包装	器具・容器・包装の素材と特性について解説する。	予習 教科書p.165～173を読んでおく。いつも使用している調理器具や容器・包装剤の材質を調べておく (60分)
			復習 器具・容器・包装の素材とその特徴を理解する (60分)
14	食品の新しい安全性問題	遺伝子組み換え食品、放射性照射食品、アレルギー物質を含む食品について解説する。	予習 教科書p.174～183を読んでおく。アレルギー物質を含む食品、遺伝子組み換え食品について調べておく (60分)
			復習 遺伝子組み換え食品などの食品表示について理解する (60分)
15	まとめの講義	食品衛生学で学んだことを再度確認する。授業のまとめ	予習 今まで学んだことをノート、プリント、教科書で再度見直しておく (60分)
			復習 まとめ講義で学んだことを理解する (120分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
カレント食べ物と健康3 改訂 食品衛生学	川村 堅・斉藤守弘 編者	建帛社

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目

微生物学、食品学総論、公衆衛生学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲は授業中の質問に対する積極的な発言や予習復習の取り組みなどを評価いたします。授業の進め方は、教科書、配布資料をもとに講義形式 (板書、パワーポイント、視聴覚媒体使用) で行います。食中毒に関する最新のトピックスは毎時、授業の最初に紹介します。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

小テストは採点し返却します。また授業中に解説・総評を述べます。

◆受講上の注意事項及び助言

- 遅刻・欠席はしないこと。
- 予習・復習をしっかりと行いましょう。
- 食品の安全に関するニュースや事件を調べてきて発表してもらいます。

◆オフィスアワー

受付時間：授業日の放課後5時まで

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：メールでの質問可能。研究室前のメッセージボードも活用可能。



# 応用栄養学Ⅲ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期

担当者氏名 佐藤ひろ子

## ◆授業概要

本科目は、保健所等保健分野、子ども部教育・保育分野に37年間行政栄養士として勤務した経験を持つ教員が担当する。それぞれの分野で遂行した乳幼児から高齢者までの実践的な栄養教育や地域の健康づくり・食育の推進のためのネットワークづくり、地域の様々な分野をつなぐコーディネーターとして得た知識や技術を管理栄養士養成に活用する。

応用栄養学Ⅲでは、応用栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだ妊娠期から高齢期のライフステージ別と運動・スポーツ、特殊環境条件下における栄養ケア・マネジメントについて、食事摂取基準の科学的根拠に基づき、身体測定や生化学的検査データ等から得られた情報を用いて解析、評価し、栄養ケア・プログラムの立案、具現化の実際について演習を通して修得する。

栄養生化学、解剖生理学、病理学、栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学との関連が深い科目であり、対象者を総合的に捉え、理解し栄養ケア・プログラムを作成、活用できることを目指す。

さらにアクティブラーニングとして、地域等連携事業に使用する媒体を学生が主体的に作成し、媒体の配布を通して地域における食育の実践を体験する。

## ◆到達目標

1. 各ライフステージ別における生活環境、食生活や栄養素等摂取の特徴を理解し、それに基づいた栄養ケア・プログラムを作成し活用できる。
2. 運動・スポーツおよび特殊環境条件下における生体機能の変化を理解し、それに基づいた栄養ケア・プログラムを作成し活用できる。
3. 食事摂取基準(2020版)策定の考え方や科学的根拠について理解し、具体的に活用できる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	授業の概要及び栄養ケア・マネジメントⅠ 地域等連携の実践1	応用栄養学の基礎的理解 栄養ケア・マネジメントの概要、日本人の食事摂取基準(2020年版)の概要、栄養適正量の算定と献立作成および評価 かつしか元気な食応援店事業の説明 ・小テスト	予習：教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：・栄養ケア・マネジメントを中心に、その特徴を復習し理解する。 ・過去の「元気な食応援店事業」の活動内容を調べる(60分)
2	地域等連携の実践2 (演習)	食育サポーター事業使用媒体「知っとくメモ」作成要領説明・作成	予習 担当テーマの資料を収集し、紙面構成を検討する。(60分)
			復習：媒体作成を行う。(60分)
3	妊娠期、授乳期の栄養	妊娠期、授乳期の食事摂取基準	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：妊娠期・授乳期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめておく。(60分)
4	栄養ケア・マネジメントⅡ (演習)	授乳期の栄養ケア・プログラムの立案、具現化 知っ得メモ第1回提出日	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：授乳期の栄養ケア・プログラムを仕上げる。授乳期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。(100分)
5	新生児期、乳児期の栄養	新生児期、乳児期の食事摂取基準	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：新生児期、乳児期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめておく。(60分)
6	栄養ケア・マネジメントⅢ (演習)	乳児期の栄養ケア・プログラムの立案、具現化 知っ得メモ第2回修正版提出日	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめておく。(40分)
			復習：乳児期の栄養ケア・プログラムを仕上げる。乳児期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめておく。(60分)

7	幼児期、学童期、思春期の栄養	幼児期、学童期、思春期の食事摂取基準	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：幼児期、学童期、思春期の特徴と栄養ケアのポイントを復習しまとめる。(60分)
8	栄養ケア・マネジメントⅣ(演習)	幼児期の栄養ケア・プログラムの立案、具現化	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：授乳期の栄養ケア・プログラムを仕上げる。 ・幼児期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。(60分)
9	成人期、更年期の栄養	成人期、更年期の食事摂取基準	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：更年期の特徴と栄養ケアのポイントを復習しまとめる。(60分)
10	栄養ケア・マネジメントⅤ(演習)	成人期の栄養ケア・プログラムの立案、具現化 知っ得メモ第3回最終版提出日	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：更年期の栄養ケア・プログラムを仕上げる。 ・更年期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。(60分)
11	高齢期の栄養	高齢期の食事摂取基準	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：高齢期の特徴と栄養ケアのポイントを復習しまとめる。(60分)
12	栄養ケア・マネジメントⅥ(演習)	高齢期の栄養ケア・プログラムの立案、具現化	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：高齢期の栄養ケア・プログラムを仕上げる。 ・高齢期の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。(60分)
13	運動・スポーツと栄養	健康づくりのための身体活動基準の基本的概念・科学的根拠	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：運動・スポーツの特徴と栄養ケアのポイントを復習しまとめる。(60分)
14	栄養ケア・マネジメントⅦ(演習)	スポーツ選手の栄養ケア・プログラムの立案、具現化	予習：2年次の応用栄養学Ⅰで配布した資料や教科書の重要用語についてまとめる。(40分)
			復習：スポーツ選手の栄養ケア・プログラムを仕上げる。 ・運動・スポーツの特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。(60分)
15	栄養ケア・マネジメントⅦの実際(演習) 環境と栄養	スポーツ選手の栄養ケア・プログラムの実際	予習：資料や教科書の重要用語についてまとめる。(60分)
		熱中症予防の栄養ケア・プログラムの立案、具現化 小テスト	復習：特殊環境の特徴と栄養ケアのポイントを復習し、まとめる。

※ 元気な食応援店事業使用媒体「知っとくメモ」は、情報収集し、作成、修正し、完成させる。(1520分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
応用栄養学実習 —ケーススタディーで学ぶ栄養 マネジメント—	五関正江・小林三智子 他	建帛社

◆参考書

書名	著者	発行所
日本人の食事摂取基準 (2020 年 版)	厚生労働省「日本人の食事摂取基 準 (2020 年版)」策定検討会報告 書	第一出版
食事摂取基準(2020 版) 理論と 活用	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版
応用栄養学 ライフステージ別・ 環境別	日本栄養改善学会 監修	医歯薬出版

◆関連科目

専門基礎分野 (栄養生化学、解剖生理学、病理学)  
専門分野 (栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学)

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	10
レポート	30	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 課題の提出については、必ず締め切り日までに提出すること。

演習における学習に取り組む姿勢・意欲については、「グループディスカッションに積極的に参加している」「班内をリードして進めるように努力している」「主体的に取り組んでいる」等の項目について評価する。  
応用栄養学Ⅲは、臨地実習Ⅲ・Ⅳの履修基準となっている。積極的に授業に臨んでください。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポート等提出物は添削し、コメントをつけて返却する。または、授業内で総評を述べる。  
不足・不備があった場合は、再提出を求めることがある。  
提出期限は厳守する。

◆受講上の注意事項及び助言

- 欠席厳禁。遅刻・早退3回で1回欠席とする。
- 管理栄養士にとって不可欠な科目であるため、興味を持って取り組んでください。事前に予習をしておくことで演習内容が理解できます。また、授業後、授業時に配布された資料や教科書の該当箇所を中心に、参考書も利用してノート整理をしながらまとめるとより一層理解が深まります。My ノートを随時作成しておけば試験対策の時も役立ちます。

◆オフィスアワー

受付時間： 新学期開始時に学務課からの掲示を確認すること。  
受付場所： 研究室  
上記で対応できない場合：研究室の前のメッセージボードを活用する。

# 臨床栄養学Ⅱ

(2単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期  
担当者氏名 宮内 眞弓

## ◆授業概要

本科目は、国立病院機構に34年勤務し、患者の栄養管理に携わり、病院における栄養管理について経験を生かした授業を行う。15回の授業全体を通して、病院栄養士として必要とされる患者の栄養管理について学修する。臨床栄養学Ⅱでは、各種疾患、病態別に栄養ケア・マネジメントを学ぶ。診断基準及び治療効果の指標となる臨床検査値について理解し、治療の一助となる「栄養管理・栄養補給法の知識や技能」の習得を目指す。また、チーム医療の一員として、他職種とのコミュニケーションを保ちながら、治療全般にかかわっていくために、広い知識を身に着けることを目的とする。授業はパワーポイントとプリントを用いた形式をとる。

## ◆到達目標

1. 各疾患の特徴、症状を説明できる。
2. 病態別の栄養管理・栄養補給法・栄養ケア・マネジメントが説明できる。
3. 病態別の臨床検査値、薬物療法等、治療全般について説明ができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	代謝系疾患	糖尿病(妊娠糖尿病含む)・肥満症(小児肥満症含む)など生活習慣病の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第1章 代謝疾患について学習しておく。第18章 小児肥満、第19章 妊娠糖尿病について学習しておく。(30分) 復習:糖尿病・肥満・脂質異常症など生活習慣病の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(60分)
2	内分泌系疾患	内分泌疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。 ホルモンの過剰や欠乏の疾患について理解する。	予習:第2章 内分泌系疾患について学習しておく。(30分) 復習:内分泌疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(60分)
3	消化管疾患Ⅰ	周術期の消化管疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第3章 消化管疾患について学習しておく。(30分) 復習:消化管疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(30分)
4	消化管疾患Ⅱ 周術期の管理	消化管疾患(口腔から大腸まで)の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。確認テスト	予習:第14章 周術期の管理について学習しておく。(20分) 復習:復習:周術期の管理・クリティカルケアの病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(30分)
5	肝・胆・膵疾患	栄養代謝の中心である肝臓・膵臓・胆道系臓器の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。確認テスト	予習:第4章 肝・胆・膵疾患について学習しておく。(30分) 復習:肝・胆・膵疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(40分)
6	循環器疾患	高血圧、心疾患、心不全、脳血管障害の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。確認テスト	予習:第5章 循環器疾患について学習しておく。第19章 妊娠高血圧について学習しておく。(20分) 復習:循環器疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(30分)
7	腎・尿路疾患	腎臓病・糖尿病性腎症・透析など腎疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第6章 腎・尿路疾患について学習しておく。(30分) 復習:腎・尿路疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(40分)
8	神経・精神疾患	認知症、摂食障害、アルコール依存などの神経・精神疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第7章 神経・精神疾患について学習しておく。(20分) 復習:神経疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(20分)
9	呼吸器系疾患	肺疾患を中心とした呼吸器の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第8章呼吸器系疾患について学習しておく。(20分) 復習:呼吸器系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(20分)
10	血液・造血器系疾患	貧血や造血器系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。	予習:第9章 血液・造血器系疾患について学習しておく。(20分) 復習:血液・造血器系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する(20分)。

11	運動器系疾患	骨粗鬆を中心とした骨格系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。確認テスト	予習：第 10 章 運動器系疾患について学習しておく。(20 分) 復習：運動器系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(30 分)
12	免疫・アレルギー系疾患・感染症	食物アレルギーを中心とした免疫系疾患の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを学ぶ。 感染症、感染症対策について学ぶ。	予習：第 11、12 章 免疫・アレルギー系疾患・感染症について学習しておく。(20 分) 復習：免疫・アレルギー系疾患・感染症の病態と臨床検査値の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(40 分)
13	がんとターミナルケア	がんの予防、治療、がんの栄養管理について理解と栄養ケア・マネジメントを学ぶ。 確認テスト	予習：第 13 章 がんとターミナルケアについて学習しておく。(30 分) 復習：がんとターミナルケアの病態の理解および栄養ケア・マネジメントを理解する。(40 分)
14	クリティカルケア 摂食機能障害	重篤な外傷や広範囲の熱傷・手術の感染等侵襲を負った重症患者の栄養アセスメントを学ぶ。	予習：重症患者の栄養管理について学修しておく。(30 分) 復習：重症患者の栄養管理について理解する。(30 分)
15	まとめ	すべての疾患について復習をする	予習：すべての疾患を整理しておく (40 分) 復習：すべての疾患の栄養管理について理解する。(20 分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨床栄養学 疾病別編	本田佳子 土江節子 曾根博仁	羊土社

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

- ・授業に取り組む姿勢・意欲 10%については、授業中「積極的に意見を述べる」「質問に的確に回答する」の 2 点について 3 段階で評価する。(10、5、0 点)。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・確認テストは、授業で解答解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・教科書、ノートを必ず持参し受講すること。

◆オフィスアワー

受付時間：授業終了後随時

受付場所：教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室ドアのメールボックス及びメール(miyauchi-m@tsc-05.ac.jp)で対応します。



# 臨床栄養学実習 I

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 宮内 真弓

## ◆授業概要

本科目は、国立病院機構に 34 年勤務し、患者の栄養管理に携わり、病院における栄養管理について経験を生かした授業を行う。15 回の授業全体を通して、傷病者の栄養管理、多職種との協働活動、症例検討について学修する。病院での体験とおし実際の栄養管理、他職種とのかかわりについて学ぶ。栄養指導の実習は、患者からどのように食事生活を聞き出すか、聞き出した食生活から患者の問題点を探り、どのような解決策があるかなどロールプレイで体験を行いグループごとに評価を行うことを体験する。症例検討の授業では、班ごとに症例を選びどのように症例を解釈し、栄養診断するかをディスカッションし、班ごとに発表、その後クラス全体でディスカッションを行う。

## ◆到達目標

1. 傷病者に対して適切な栄養評価を行うための知識と方法を実践できる。
2. 傷病者に対して適切な栄養ケアとマネジメントを企画、実践し、説明できる。
3. 医療チームの一員としての管理栄養士のあり方について説明できる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	臨床栄養学実習の意義 授業計画 栄養ケア・マネジメントについて①	授業の概要説明（演習、実習）および諸注意 臨床栄養学に際して基本的な考え方、栄養ケア・マネジメントについての意義、その指標、スクリーニングの演習を行う。	予習：教科書第 1～3 章を読み臨床栄養学の意義と目的について理解する。語句について調べる。(20 分)
			復習：配布資料を基に内容を復習し、SGA について理解する。(30 分)
2	栄養アセスメント① 身体測定	身体計測演習、臨床生理学検査を行い、アセスメントシート作成する。	予習：教科書第 4 章を読み、理解する。測定方法について調べておく。(20 分)
			復習：教科書、まとめたノート等で復習する。アセスメントシート作成、提出する。(60 分)
3	栄養アセスメント② 食事摂取量算出法	栄養補給方法と食事摂取量計算方法について。糖尿病の食品交換表の使用方法を学び、摂取量の計算方法を学ぶ。	予習：教科書第 6 章を読み、食事摂取量調査について理解しておく。(20 分)
			復習：聞き取った食事の計算ができるようにする。計算の復習を繰り返す。(60 分)
4	栄養アセスメント③ 食事摂取量聞き取り計算	食事摂取量調査、調査票を基に聞き取りの演習、摂取量の算出方法を学ぶ。	予習：糖尿病の交換表の使い方を復習する。教科書 4 章の食事聞き取り方法を復習しておく。(30 分)
			復習：配布資料、まとめたノート等を基に食事摂取量調査について復習する。(60 分)
5	栄養計画書作成	栄養管理計画書の作成方法を学び、症例を通し栄養管理計画書を作成する。	予習：教科書第 5～6 章を読み、栄養管理計画書及び、検査データを理解しておく。(30 分)
			復習：栄養管理計画書について復習する。(30 分)
6	栄養診断に基づいた管理計画	症例検討を通し、栄養ケアプロセス、栄養診断について学ぶ。栄養管理計画の記録について学ぶ。	予習：教科書第 5 章を理解しておく。臨地実習マニュアル栄養アセスメントについて理解しておく。(30 分)
			復習：栄養診断に基づいた管理計画書を作成する。(30 分)
7	栄養管理計画書の作成	各症例を通し、栄養診断から計画書の作成を学ぶ。	予習：各疾病の特徴を理解しておく。(予習 20 分)
			復習：配布資料、まとめたノート等で症例について復習する。(30 分)
8	栄養補給法①	食事摂取基準に基づく献立作成食糧構成について学ぶ。	予習：自分の食事記録をつけて、今まで食べている食事の評価を行ってみる。(60 分)
			復習：食糧構成について理解し、献立作成を行う。(20 分)
9	献立作成	献立作成。各班で作成した献立評価を行う。	予習：病院・福祉施設の献立作成の本などの資料を準備する。(20 分)
			復習：献立を完成させ、提出する。(20 分)
10	栄養補給法②	経静脈栄養法栄養療法の分類、選択基準について学ぶ。経管栄養法の管理及び経腸栄養剤の分類・特徴、適応疾患を学ぶ。経腸栄養法・(経腸栄養剤) 試食・試飲・レポート作成	予習：教科書第 6 章を読み、栄養補給法について理解する。(20 分)
			復習：試食、試食体験について、資料、ノートを基に復習する。レポートを作成し提出する。(60 分)
11	栄養ケアの実際	栄養ケアの記録の演習	予習：教科書第 8 章を読み栄養ケアについての記録について理解しておく。(20 分)
			復習：栄養ケア記録を提出する。(30 分)
12	栄養食事指導①	栄養食事指導演習 栄養指導の記録（POS・POMRによる指導記録を SOAP 形式で作成する）	予習：教科書 8 章を読み記録について理解しておく。(20 分)
			復習：作成した栄養食事指導記録を提出する。(30 分)
13	栄養食事指導②	症例検討、患者データから栄養評価、指導計画立案、指導の実際、評価、記録を実習する。	予習：教科書第 8 章を理解しておく。(20 分)
			復習：配布資料の症例検討について、一連の流れを確認する。(20 分)

14	食事介助	食事介助実習（ベッド、自助具使用）介護食 試食、高齢者体験グッズ	予習：嚥下に関する項目を予習する。食事介助について予習し理解しておく。(20分) 復習：体験したことを資料、ノート等を基にまとめレポートを作成、提出する。(20分)
15	臨床栄養学実習まとめ	臨床栄養学実習まとめ	予習：臨床栄養学の基礎と手技、流れについて理解する。(40分) 復習：提出書類の確認をし、栄養管理の一連の流れを復習する。(30分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習マニュアル 臨床栄養学	寺本房子 渡邊早苗 松崎政三	建帛社
糖尿病食事療法のための食品交換表 (第7版)	日本糖尿病学会	文光堂

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
日本食品成分表	香川芳子監修	女子栄養大学出版部
臨床栄養学 基礎編、疾病編 改定第2版	本田佳子 土江節子 編著	羊土社
調理のためのベーシックデータ第5版		女子栄養大学出版部

#### ◆関連科目

専門基礎分野（栄養生化学、解剖学、病理学、食品学、調理学）

専門分野（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、公衆栄養学、給食経営管理論）

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	30	実技（発表・コミュニケーション）	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

- ・レポート、課題は期日に遅れないで提出すること。レポートは誤字脱字がなく、体裁が整っており、実習内容が明確に記載されていること。自分で感じた感想が的確に記入されているかを4段階で評価する。レポートは10回課し、それぞれの達成度は4段階（3、2、1、0点）で評価する。実技の評価は班単位で内容が論理的に明確にまとまっているかを3段階（3、2、1）評価する。

#### ◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

- ・レポートは評価しコメントを入れ返却する。献立提出については訂正コメント記入するので次回までに新しく訂正しておくこと。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

- ・班単位での実習になるので、各自が責任を持って実習すること。
- ・臨地実習をひかえ、関連する授業であるので特に受講態度、レポートを重視する。挨拶、服装（白衣）、時間等については授業開始時に約束事として確認する。
- ・授業に必要な資料（食品成分表、臨床検査の本、料理の本など）は、各自で用意しておくこと。出来るだけ図書館等で病院給食、福祉施設で参考となる献立等の資料を用意すること。

#### ◆オフィスアワー

受付時間：授業終了後 随時

受付場所：教室 または研究室

上記で対応できない場合：研究室ドアのメールボックス及びメール(miyauchi-m@tsc-05.ac.jp)で対応します。



# 臨床栄養カウンセリング論

(2単位)

(管理栄養学科)

開講時期 3年・前期

担当者氏名 阿出川 國雄

## ◆授業概要

本科目は、公立病院に40年間勤務した管理栄養士が病院給食における患者栄養管理、人事管理や新人教育等の経験を生かした授業を行う。現在、医療現場で管理栄養士に求められている事項は、多岐にわたる。その一つに、医療チームの一員としての自覚が挙げられる。医師、保健師、看護師、薬剤師、言語聴覚士などコメディカルとの連携を図り、クライアントに対してより効果的な栄養教育が実践できるよう、クライアントの心に寄り添う栄養指導を行うことができ、また、コミュニケーション能力の優れた管理栄養士が求められている。

栄養管理室室長として栄養管理業務に携わっていた経験を活かした授業を行う。最初に自己分析を行い、自身を確認する。心やストレスの仕組みを学び、クライアントの気質や気持ち、感情のメカニズムを理解する。ヘルスカウンセリング技法を学び、目的に応じた理論と技法を理解する。アセスメント、情報提供、アドバイスを踏まえ、基本姿勢(観察・傾聴・共感・確認)、要約、繰り返し、症例を用いたグループでコミュニケーションを取りながら演習を行い学ぶ。隠れた本当の要求の明確化等の理論と方法を理解し、クライアントと一緒に問題を考え、気づきや自己決定、行動変容に導くことができるよう、クライアントの心に寄り添い、心を動かす能力を養い、栄養教育の展開を理解する。(適宜、皆で歌を聴き、歌詞の意味を皆で考え感じながら自身の言葉でコメントし、コミュニケーション能力の礎を創る時間を設ける。)(令和4年3月末病院を定年退職。現在はメンタルビタミン研究所・代表)

## ◆到達目標

1. 授業開始時よりも自身のコミュニケーション能力を深め、自己成長(自信)を感じることができる。
2. 行動科学理論の基礎を学習し、カウンセリング技法や行動変容技法理論を説明できる。
3. カウンセリングの演習で基本的な技法を用いて症例・事例を体験展開し、クライアントの心に寄り添うことの出来る能力(覚悟と基礎力)を身に付け、オーダーメイドの栄養指導に対応できる様にする。
  - ・一歩踏み出す力(主体性・働きかけ力)
  - ・考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)(過去、現在の栄養教育を踏まえて、未来の栄養教育を創造する。)
  - ・チーム力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律性・ストレスコントロール力)

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	授業のガイダンス 15回の流れと諸注意 自己分析(前)	自己分析(初回) 栄養カウンセリングの概要 自己成長するための課題発見をする。	予習: ガイダンス、コーチング、カウンセリングの違いを調べる。自身のパーソナリティを確認しておく。(60分) 復習: 栄養相談者に求められるテクニックを理解する。何故、管理栄養士を目指すのかをA4用紙一枚にまとめる。(60分)
2	カウンセリング技法①	栄養カウンセリングを行う管理栄養士の態度と職業倫理を学ぶ。	予習: 自身の体験から心が折れたと感じた時の気持ちを人に伝えられるようにA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 栄養カウンセリングを行う管理栄養士の気持ちを自身に当てはめ態度を考えてみる。(60分)
3	カウンセリング技法②	クライアントの話を確認することで安心を与え、共感することで癒す技法を理解する。	予習: 自身が安心感を持って話が出来る人はどんな人物か、人に伝えられるようにA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 管理栄養士の基本姿勢を理解し演習を通して修得する。(60分)
4	カウンセリング技法③	行動変容の基本的概念を理解する。	予習: 人生で一番腹が立ったこと、今年になって一番腹が立ったことを箇条書でA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 管理栄養士の基本姿勢を理解し演習を通して修得する。(60分)
5	カウンセリング技法④	行動変容に必要な技法を理解する。	予習: 人生で一番感動や共感をした、映画、テレビ、本など何でもよいのでA4用紙一枚に共感・感動の内容をA4用紙一枚にまとめる。(180分) 復習: 管理栄養士の基本姿勢を理解し演習を通して修得する。(60分)
6	カウンセリング技法⑤	カウンセリング環境を考える。	予習: 現在の自身の喜び・不安・怒り・悲しみ・苦しみを其々箇条書でA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 困難を乗り越えるための、自身の気持ちの切り替えを考えて見る。(60分)

7	カウンセリング技法⑥	栄養カウンセリングの流れと実際。	予習: 最近の自分の心の変化をA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 自己イメージ連想法の演習で技法を深める。(60分)
8	カウンセリング技法⑦	ステージ別栄養カウンセリング。	予習: 成人を迎えた時の心の変化を簡条書でA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 連想法の演習で技法を深める。(60分)
9	カウンセリング技法⑧	臨床の場の演習・応用。 ストレスと病気の関連についての理論を理解し学ぶ。	予習: 自分にとって、食べることはどんな位置(意味)づけか、人に伝えられるようにA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: 演習でアサーションを深める。気づいたことをまとめる。(60分)
10	栄養コーチング グループカウンセリング 電話・電子メール	コーチング法の理論を理解し演習する。他者に期待できること、出来ないことが解り対人の関係性が良くなることを体験できる。	予習: 最近自分が気になる食品や栄養の問題点をA4用紙一枚にまとめる。(60分) 復習: コーチングの演習を体験することで、人間改善ワークを身に付ける。気づいたことをまとめる。(60分)
11	症例から学ぶ①	糖尿患者のヘルスカウンセリングを通して基本姿勢と技法を学ぶ。 仮チームで症例実習に臨む。	予習: 糖尿患者の病態と心理特性を調べてA4用紙一枚にまとめる。献立を作成してくる。(60分) 復習: 行動変容できるように演習深める。(60分)
12	症例から学ぶ②	腎不全患者・透析患者のヘルスカウンセリングを通して基本姿勢と技法を学ぶ。仮チームで症例実習に臨む。	予習: 腎不全患者、透析患者の病態と心理特性を調べてA4用紙一枚にまとめる。献立を作成してくる。(180分) 復習: 行動変容の演習を深める。(60分)
13	症例から学ぶ③	低栄養のヘルスカウンセリングを通して基本姿勢と技法を学ぶ。仮チームで症例実習に臨む。	予習: 低栄養の病態と心理特性を調べてA4用紙一枚にまとめる。献立を作成してくる。(180分) 復習: 行動変容の演習を深める。(60分)
14	症例から学ぶ④ グループカウンセリング 生化学検査データからみる食生活①	脂質異常症患者のヘルスカウンセリングを通して基本姿勢と技法を学ぶ。 症例の食生活をアセスメントし栄養ケアを理解する。	予習: 脂質異常症患者の病態と心理特性を調べてA4用紙一枚にまとめる。献立を作成してくる。(180分) 復習: 行動変容の演習を深める。 生化学検査データから食生活をアセスメントし、栄養ケアが出来るように演習を深める。(60分)
15	生化学検査データからみる食生活② 自己分析(後)	症例の食生活をアセスメントし栄養ケアを理解する。 自己分析(後)で自己成長を評価する。 まとめ。	予習: 生化学データの基準値を調べてくる。自身のコミュニケーション能力の優れているかもしれない自慢の部分をA4用紙一枚にまとめる。(180分) 復習: 生化学検査データから食生活をアセスメントし、栄養ケアが出来るように演習を深める。(60分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
栄養カウンセリング論	赤松利恵 他	化学同人
プリント 国家試験過去問題		

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
栄養指導スキルアップ	幣 憲一郎	メディカ出版
栄養指導と患者ケアの実践ヘルスカウンセリング	宗像恒次、他	医歯薬出版
実践に役立つ栄養指導事例集	井川聡子 他	理工図書

#### ◆関連科目

臨床栄養学Ⅰ、臨床栄養Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ、臨床栄養学実習Ⅱ  
栄養教育論Ⅰ、栄養教育論Ⅱ、栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50	小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	10
学習に取り組む姿勢・意欲	10	チームワーク	10

(補足) 参考書を中心に実践的な学びを行います。

学習に取り組む姿勢・意欲には、出席状況、受講態度も含まれる。

対人援助職である管理栄養士として、コミュニケーションを身につけることを支援する。

新し発想やチームワークを見る。特に考える力を身につける。

◆課題 (予習・復習レポート等) のフィードバックの方法

レポートはコメント記載し返却する。発表等については発表後コメントする。提出物がある場合はコメントをつけ返却する。チームで発表・提出物やチームワークも採点の一つとなる。それぞれが決めた役割を適切に行うこと。

◆受講上の注意事項及び助言

クライアントに気づきや自己決定、行動変容を促すためのスキルを身に付けるには、繰り返し演習が必要である。

自分の心の動きをいつも感じて、自分を知る (自己分析・客観的にみる)。

自分を思う。クライアントを思う。

演習はいろいろな学生とペア演習になるが、積極的に行うこと。

予習の項目は毎回 A4 用紙一枚以内にまとめ、授業前にコピーを提出。原本はファイルしておくこと。

(11 回～14 回の予習では症例に合わせた献立・アドバイスを考案してくる。)

◆オフィスアワー

受付時間：授業日授業終了から 30 分程度

受付場所：学務課

上記で対応できない場合：学務課に質問事項を提出する。

## 公衆栄養学Ⅱ (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期  
 担当者氏名 佐藤 ひろ子

### ◆授業概要

公衆栄養学Ⅰの内容を踏まえて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連プログラムの計画(Plan)・実施(Do)・評価(Check)・改善(Act)する総合的なマネジメント理論とその評価方法を学習する。さらに各種公衆栄養プログラムの調整、人的資源などの社会的資源の活用、健康・栄養情報の管理、コミュニケーションなどの仕組みを理解する。

また、地域・職域の課題を見出し、適切な栄養関連サービスを提供するために必要な公衆栄養プログラムや施策を多職種連携の中で、科学的、理論的に提案できるよう知識と技術を身に付ける。本授業は、自治体・保健所等の行政栄養士を経験し実際に政策に携わった教員が担当し、国・都道府県・市町村の連携や地域住民ボランティア及び企業等の関わりについて指導する。

### ◆到達目標

1. 行政栄養士としての知識・技能を修得できる。
2. 保健・医療・福祉・介護システムの中で、公衆栄養活動の意義が説明できる。
3. わが国並びに諸外国の健康・栄養問題に関する動向について、諸要因を把握し、課題分析する能力を身につける。

### ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	公衆栄養学Ⅰで学習した内容の理解度を確認する。公衆栄養活動の概念について理解する。	予習：公衆栄養学Ⅰ理解度テストのため事前学習(60分) 復習：テストの不正解問題の正文作成。(60分)
2 ～ 4	栄養疫学	栄養疫学は、栄養施策のためのアセスメントや評価のツールとして重要であることを理解する。 1) 栄養疫学の概要、役割 曝露情報としての食事摂取量の特性を理解し、その調整法を理解する。 2) 曝露情報としての食事摂取量 3) 食事摂取量の測定方法、種々の食事調査法の可能性と限界を理解し、実践の場の状況にあわせて自在に活用できるようにする。 4) 食事摂取量の評価方法	予習：栄養疫学の概念の事前学習(毎回60分) 復習：各回 栄養疫学の役割についてまとめる。(毎回60分)
5 ～ 8	地域診断と公衆栄養マネジメント	公衆栄養マネジメントの考え方、重要性を認識し、PDCAのマネジメントサイクルの考え方に沿った公衆栄養活動の展開を理解する。 1) 公衆栄養マネジメント 2) 公衆栄養アセスメント 公衆栄養マネジメントでは、対象集団の状況に応じた目標を立て、問題点を明確にするアセスメントや問題解決のための目的・目標を設定し実施(運営)のための計画から評価を繰り返すことであることを理解する。 3) 公衆栄養プログラムの目標設定 4) 公衆栄養プログラム設定 公衆栄養マネジメントサイクルの各過程における目的と方法を学び、その際の留意点について理解する。 5) 公衆栄養プログラムの評価	予習：公衆栄養マネジメントの考え方について事前学習(毎回60分) 復習：PDCAサイクルの考え方に沿って公衆栄養活動の要点をまとめる。(毎回60分)

9 ～ 14	公衆栄養プログラムの展開	健康づくり, 食育, 在宅医療, 介護, 健康・食生活の危機管理と食支援に関連する公衆栄養プログラムの事例を学ぶ。 1) 地域特性に対応したプログラムの展開 2) 食環境整備のためのプログラムの展開 特別用途食品・特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の活用, 栄養成分表示の活用, 外食料理の栄養成分表示の活用事例を通じて食環境づくりのためのプログラムを理解する。 3) 地域集団の対象・特特別プログラム 食品ロス削減普及啓発事業、ハイリスク集団を対象とした公衆栄養プログラム事業の事例がどのように展開されているかを学ぶ。	予習：公衆栄養プログラムの事例について事前学習(毎回60分)
			復習：各回 1) 地域特性に対応したプログラム 2) 食環境づくりのためのプログラム 3) 地域集団の対象・特特別プログラムの要点をまとめる。(毎回60分)
15	公衆栄養プログラムの策定・展開までの経過	まとめ	予習：公衆栄養プログラムの策定の経過を事前学習(60分) 復習：公衆栄養プログラムをPDCAサイクルにまとめる。(60分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
公衆栄養学	古畑公, 松村康弘, 鈴木三枝編著	光生館
管理栄養士・栄養士必携		第一出版

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
国民衛生の動向		厚生労働省
食育白書		農林水産省
食事摂取基準(2020年版)		厚生労働省

#### ◆関連科目

公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ, 応用栄養学Ⅰ・Ⅱ, 給食計画論, 給食経営管理論, 公衆衛生学などに関連する。

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率(%)	評価項目	評価比率(%)
定期試験	60	小テスト	
レポート	30	実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法  
提出課題について評価し返却する。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

授業に集中して聞くことが重要である。どこ(何)が分からないのかを明らかにし、質問あるいは自習・復習で確認をすること。理解できないところは、質問するかオフィスアワーを利用し、担当教員に確認する。配布する資料は、教科書と共に繰り返し復習すること。また、資料は、ファイルし教科書同様に扱うこと。

#### ◆オフィスアワー

受付時間： 授業終了後または授業当日の16:30～18:00  
受付場所： 教室または研究室

上記で対応できない場合：研究室前のボードにて記載する。



# 給食経営管理論

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 風見 公子

## ◆授業概要

管理栄養士の活動の場である特定給食施設は、「特定かつ多数の者に対して継続的に食事を供給する施設のうち、栄養管理が必要なもの」とされ、対象の栄養管理を軸として、効率的、経済的な手法を用いた管理が必要となる。本講では、給食の意義やシステム、管理栄養士の役割を理解したうえで、栄養・食事管理、食材料管理、生産管理、品質管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、原価管理などの実務全般について理解するとともに経営的な視点から関連の資源を総合的に判断し、栄養面・安全面・経済面全般のマネジメントを行うために必要なマーケティングの原理や組織管理、給食システム構築のための手法を学ぶ。そのことにより食・栄養の専門家であると同時に給食経営管理者としての総合力を習得する給食運営に必要な各管理の目的や手法について修得する。

基本的に教科書とプリントを用い、パワーポイントを活用しながら講義形式を進める。知識や理解を確実なものとするため、毎回授業内に小テストを行う。

## ◆到達目標

1. 給食の意義・目的、管理栄養士の役割を説明できる。
2. 給食システムとオペレーションシステムを理解し、PDCAに基づいた計画・実施・評価・改善が説明できる。
3. 給食の関連資源（人・物・金）を理解し、経営的な視点から給食運営全般を捉えることができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション 給食の概念 (1)	予習・復習の方法について 給食の定義・目的、給食における管理栄養士の役割	予習：教科書 給食とはを読む。(120分) 復習：給食の定義・目的、給食における管理栄養士の役割をまとめる。(120分)
2	給食の概念 (2)	給食システム 給食施設の特徴と関連法規 健康増進法における特定給食施設 学校給食	予習：教科書 給食システム・学校給食を読む。(120分) 復習：給食システムの種類と内容を説明できるようにする。(120分)
4	給食の概念 (3)	給食を提供する施設と関連法規 健康増進法における特定給食施設、医療施設	予習：教科書 給食施設の特徴と関連法規を読む。(120分) 復習：医療施設における給食についてまとめる。(120分)
4	給食の概念 (4)	給食を提供する施設と関連法規 健康増進法における特定給食施設、高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設、事業所	予習：教科書 給食施設の特徴と関連法規を読む。(120分) 復習：高齢者・介護福祉施設、児童福祉施設、障害者福祉施設、事業所についてまとめる。(120分)
5	給食経営管理の概念 (1)	給食の経営管理の意義と目的	予習：教科書 給食の経営管理の意義と目的を読む。(120分) 復習：給食の経営管理の意義と目的をまとめる。有名な給食受託会社のホームページを開き、経営理念についてまとめる。(120分)
6	給食経営管理の概念 (2)	給食の経営管理 外食産業の歴史	予習：教科書 給食の経営管理を読む。(120分) 復習：給食の経営管理をまとめる。自分がよく行く大手外食産業の歴史を調べてみる。(120分)
7	給食経営管理の概念 (3)	給食とマーケティング	予習：教科書 給食とマーケティングを読む。(120分) 復習：給食とマーケティングをまとめる。ABC分析とメニューエンジニアリングの関係を説明できるようにする。(120分)
8	給食経営管理の人事・組織管理 給食の施設・設備	人事管理の意義と目的 組織管理の意義と目的 生産(調理)施設・設備設計 食事環境の設計と設備	予習：教科書 人事管理の意義と目的、組織管理と意義と目的、生産(調理)施設・設備設計、食事環境の設計を読む。(120分) 復習：特に給食従事者の教育訓練方法と主な給食施設の機器類の名前を説明できるようにする。(120分)
9	栄養・食事管理	給食計画論における栄養・食事管理の復習	予習：給食計画論で使用した給食施設のための献立作成マニュアルやプリントを読み返しておく。(120分) 復習：アセスメントから献立作成までの方法を説明できるようにする。(120分)
10	給食における品質管理 給食における会計・原価管理	品質管理の意義と目的 会計・原価の意義と目的 給食経営における原価管理	予習：教科書品質管理、プリント給食の原価、会計・原価管理の目的、食材管理の目的を読む。(120分) 復習：損益分岐点を中心としてまとめる。(120分)

11	給食の情報・事務管理 メニューマネジメント	事務管理の意義と目的 マーチャンダイジングについて	予習：教科書 給食の情報・管理を読む。(120分)。
			復習：マーチャンダイジングを説明できるようにする。(120分)
12	給食の生産管理	生産管理における食材料管理 生産管理における調理管理	予習：教科書 食材料管理、調理管理を読む。(120分)
			復習：特に大量調理のシステムを説明できるようにする。(120分)
13	給食の安全・衛生管理	安全・衛生管理	予習：教科書 安全・衛生管理を読む。(120分)
			復習：HACCPと大量調理施設衛生管理マニュアルの内容を説明できる。(120分)
14	給食の危機管理	危機管理の意義と目的 事故・災害時対策	予習：事故：災害時対策を読む。(120分)
			復習：日本で過去に起こった震災時の管理栄養士の活躍についてまとめてみる。(120分)
15	まとめ	1回目～14回目のまとめ	予習：教科書 一通り読み返してくる。(120分)
			復習：期末テストに向けてまとめる。(120分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
Nブックス 新版給食経営管理論	岩井達、名倉秀子、松崎政三 風見公子、他	建帛社
給食経営管理論	細山田洋子、宮原公子、植松節子、 風見公子、他	化学同人

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
給食施設のための献立作成マニュアル	赤羽正之、他	医歯薬出版
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部

#### ◆関連科目

調理学実習Ⅰ・Ⅱ、大量調理基礎実習、給食計画論、給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	75	小テスト	15
レポート		実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) 学習に取り組む姿勢・意欲10%については、授業内の発言、居眠りの状況、オフィスアワーを利用した質問で評価をする。小テストは毎回行い、適切に回答が書かれていたら、毎回1点を加点する。

#### ◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

小テスト(復習)を実施時には、時間内に答え合わせを徹底する。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

授業に必要な資料等(教科書類、プリント、電卓等)は各自で用意しておくこと。

#### ◆オフィスアワー

受付時間： 授業日 16:30～18:00

受付場所： 給食経営管理研究室

上記で対応できない場合： 上記で対応できない場合は研究室前のメッセージボードを活用し、時間と場所を打ち合わせする。または、電子メールでも対応(kazami-k@tsc-05.ac.jp)する。



# 給食経営管理実習Ⅱ

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 風見 公子 柴田 隆一

## ◆授業概要

臨地実習を想定して、特定給食施設別の給食実習を中心に、大量調理における作業工程の管理、食材の購入、調理、配膳、下膳、カウンターサービスなどの作業管理、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理、施設設備の保守管理など解説する。喫食者への栄養教育を行うとともに給食の評価を把握するため、各種調査・実習を行い、管理栄養士としての基本を身につけさせ、学校給食・病院・高齢者福祉施設の展開食を含めた給食を提供する。

1 回目～4 回目までは、始めに講義を行い、当日の内容を説明し、グループディスカッションを通して、給食に必要な帳票類、予定献立を作成する。5 回目～13 回目はグループワークで、喫食者に給食の提供を行う。14 回目、15 回目では、各班のデータをまとめ、給食の評価をし、プレゼンテーションを行うアクティブラーニング形式で進める。また地域に向けての活動として『かつしかの元気食堂』に向けた新作メニューの開発も実施する。

## ◆到達目標

1. 大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理が実施できる。
2. 喫食者への栄養教育を実施できる。
3. 施設種別の固有の給食管理実施できる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	給食の概要 給食を提供する施設と関連法規 かつしかの元気食堂の概要	施設別給食経営の実際(学校・高齢者福祉施設・病院)	予習: 給食を提供する施設と関連法規(給食管理論の教科書の付表)を読む。(100分)
		かつしかの元気食堂の内容の理解、班編制、献立作成	復習: 講話の内容、学んだことをまとめてレポートを提出する。(60分) 葛飾の元気食堂の新作メニュー作成(120分)
2	栄養・食事のアセスメント 栄養・食事の計画	給食計画の立案、給与栄養目標量の設定 喫食者を対象とした栄養教育・指導媒体の作成	予習: 喫食者を対象とした栄養教育媒体の作成に関連する参考資料を読む。(100分)
			復習: 卓上メモ、ポスターを作成し、提出する(120分)
3	給食の品質の標準化	大量調理の標準化、作業工程の管理(調理工程の管理)、配膳・下膳・カウンターサービスなど	予習: 大量調理の標準化(調味、下味、ゆで物、あえ物、サラダ、煮物、焼き物、蒸し物、揚げ物、炒め物の標準化)を読む。(100分)
			復習: 実施したテストで確認する。 作業工程計画書を作成(180分)
4	安全・衛生の概要 安全・衛生の実際 かつしかの元気食堂メニューの計画発表	大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく、給食室(厨房)における衛生管理マニュアルの作成 葛飾の元気食堂メニューの計画発表(パワーポイント使用)	予習: 大量調理施設衛生管理マニュアルを読む。(60分)
			復習: 実施したテストで確認する。(60分)
5	栄養・食事計画の実施、評価、改善	給食の実施(学校の給食) 1-①	予習: 施設種別の固有の給食目的に沿った計画・実施・評価を繰り返し、スキルをあげる。大量調理における各過程での栄養管理、生産管理、衛生管理、品質管理、作業管理などを情報共有し、班全員が理解する(シュミレーション)。(120分)
給食の実施(学校の給食) 2-①			
給食の実施(学校の給食) 3-①			
給食の実施(高齢者福祉施設入所者のための大量調理) 1-②			
9	原価、食材、生産(調理)と提供	給食の実施(高齢者福祉施設入所者のための大量調理) 2-②	復習: 給食の実施について、帳票を作成し、提出する。(120分)
給食の実施(高齢者福祉施設入所者のための大量調理) 3-②			
給食の実施(病院での入院患者を想定した入院時食事療養のための大量調理) 1-③			
11	安全・衛生の実際	給食の実施(病院での入院患者を想定した入院時食事療養のための大量調理) 2-③	
12		給食の実施(病院での入院患者を想定した入院時食事療養のための大量調理) 3-③	
13	食事環境の設計と設備 事故・災害時対策	給食の実施(病院での入院患者を想定した入院時食事療養のための大量調理) 3-③	

14	栄養・食事計画の評価、改善	給食業務の評価(まとめ、パワーポイントを使用した発表) 報告書の作成 かつしかの元気食堂メニューの評価	予習：給食業務の実施に対する評価を行う。(120分)
15	給食の品質の標準化の評価、改善 かつしかの元気食堂メニューの報告		復習：報告書の作成を行い、提出する。(300分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
プリントファイルの配布	東京聖栄大学給食経営管理研究室	東京聖栄大学給食経営管理研究室
改訂新版 大量調理 －品質管理と調理の実際－	殿塚婦美子、他	学建書院
主食・主菜・副菜料理成分表	足立己幸、他	群羊社
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大学	女子栄養大学出版部

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準 2020 年版	厚生労働省「日本人の食事摂取基準」策定検討会報告書	第一出版

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	30	小テスト	10
報告書	20	実技(発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足) 報告書の20%については誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。小テストの10%については、5回実施し、適切に解答されていれば、1回につき2点つける。学習に取り組む姿勢・意欲20%は、「積極的に意見を述べる」「グループワークを円滑に進める努力をしている」「課題に対して指示が無くても積極的に取り組んでいる」の3項目について評価する。発表・コミュニケーションは、14回、15回に実施する発表で教員及び学生に評価表を渡し、その点数で評価する。また実習時間内に作成したかつしかの元気食新作メニューは、写真撮影会及び区民へのお披露目会へと発展していく。

#### ◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し授業内に返却する。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

- ・班単位での実習になるので、授業は必ずしも順番どおりではないので注意すること。
- ・また、自己の衛生管理の徹底及び各自が責任を持って役割分担された作業を行うこと。  
なお、班員に迷惑をかけるので遅刻・欠席はしないこと。
- ・授業に必要な資料(料理の本など)は各自で用意しておくこと。

#### ◆オフィスアワー

受付時間：授業当日、授業終了後～18時

受付場所：担当者の研究室

上記で対応できない場合：研究室前のメッセージボードの活用

または、電子メールでも対応：風見 (kazami-k@tsc-05.ac.jp)、柴田 (shibata-r@tsc-05.ac.jp)

# 総合演習 I

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期～3 年・後期

担当者氏名 高橋美恵子 風見公子 小林陽子 宮内眞弓 佐藤ひろ子 柴田隆一

## ◆授業概要

総合演習 I は、臨地実習の教育効果を向上させるための事前指導である。特に給食の運営・給食経営管理論の分野と公衆栄養学分野を中心として学ぶ。

臨地実習の教育目標では、実践活動の場における「課題発見(気づき)・問題解決」と「専門的知識と技術の統合」を図ることがあげられており、事前・事後教育を徹底することが重要視されている。

事前教育の内容は、「実習の目的、目標の理解、心構え、事前の準備の徹底、知識の整理、研究課題の設定」等があげられ、それらを身に着け臨地実習に行くことを目的とする。この授業は、講義とグループワーク、グループディスカッションを主とし、アクティブ・ラーニング形式で進める。

## ◆到達目標

1. 臨地実習の意義を理解し、説明できる。
2. 履修した学科科目を横断的に理解したうえで習得できる。
3. 臨地実習の研修計画を実施できる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	事前ガイダンス① (臨地・学外実習の説明)	臨地・学外実習の実習先希望調査、日常生活諸注意(臨地実習センター)	
2	事前ガイダンス② (臨地・学外実習の説明)	臨地実習の目的、目標、心構え及び法的根拠、臨地実習の概要説明、単位取得方法の説明等	予習: 栄養士法第1条、健康増進法第20条～第24条を再読しておくこと。(各回60分×3回) 復習: 教科書で再確認をする。(各回120分×3回)
3	事前ガイダンス③ (臨地・学外実習の説明)	給食経営管理実習に関する知識を整理し、課題の発見や研究課題を確認する	
4	事前ガイダンス④ マナーについて	臨地実習に向けたマナーについて確認する。	予習・事前に配布した資料を熟読する。(60分) 復習・学んだ内容を資料を見ながら実践してみる。(60分)
5	給食の運営、給食経営管理論分野の概要説明①	事業所実習の概要説明(給食会社等) 事業所給食の現場で給食経営管理を担当する管理栄養士の実体験等講義	
6	給食の運営、給食経営管理論分野の概要説明②	保育所実習の概要説明 保育所給食の現場で給食経営管理等を担当する管理栄養士の実体験等講義	予習: 事業所・保育所・学校給食を担当する管理栄養士の現状と課題について調べる。(各回180分×3回) 復習: 事業所・保育所・学校給食を担当する管理栄養士の現状と課題について、ノートにまとめる。(各回240分×3回)
7	給食の運営、給食経営管理論分野の概要説明③	学校給食施設の概要説明 学校給食の現場で給食経営管理等を担当する管理栄養士の実体験等講義	
8	給食の運営、給食経営管理分野の課題の発見、下調べ、実習計画書作成①	事業所実習課題の発見、下調べ、実習計画書作成	予習: 事業所、保育所、学校に向け、研究課題の資料を集める。(各回180分×2回)
9	給食の運営、給食経営管理分野の課題の発見、下調べ、実習計画書作成②	保育所、学校実習課題の発見、下調べ、実習計画書作成、パワーポイント作成	復習: 研究課題について、まとめ実習計画書を作成する(各回180分×2回)
10	給食の運営、給食経営管理分野の課題の発見、下調べ、実習計画書作成報告会	パワーポイントを使用して発表し、各々の内容を確認する。	予習: 事業所、保育所、学校に向け、パワーポイントを作成する。(180分) 復習: 発表内容に対しレポートを作成する。(180分)
11	事業所実習事前最終ガイダンス	実習に向けての諸注意、持参物確認等	予習: 臨地実習ノートを熟読する。(60分) 復習: 臨地実習ノートの再確認、持参物を自宅で確認する。(90分)

12	公衆栄養学分野の概要説明	・保健所実習概要説明 (保健所, 保健センター)	予習: 地域保健法を再読し, 保健所業務について理解する。(240分) 復習: 保健所を担当する管理栄養士の現状と課題について、ノートにまとめる。(240分)
13	保健所実習課題の発見、下調べ、実習計画書作成	保健所実習課題の発見、下調べ、細菌検査方法説明、諸手続きの説明、実習計画書作成	予習: 保健所に向け、研究課題の資料を集める。(各回 180分×2回) 復習: 研究課題について、まとめ実習計画書を作成する (各回 180分×2回)
14	保健所実習事前最終ガイダンス	実習に向けての諸注意、持参物確認等	予習: 臨地実習ノートを熟読する。(60分) 復習: 臨地実習ノートの再確認、持参物を自宅で確認する。(90分)
15	実習先施設訪問及び現地打合せ	実習先各施設との打合せ (時期未定)	予習: 質問事項をまとめる。(120分) 復習: 打合せ内容をまとめる。(120分)

#### ◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習ノート	東京聖栄大学	臨地実習センター

#### ◆参考書

書名	著者	発行所
臨地実習及び校外実習の実際 (2014年版)	(公社) 日本栄養士会 他編	(公社) 日本栄養士会, (一社) 全国栄養士養成施設協会
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準 2020年版	国立健康・栄養研究所 監修	第一出版

#### ◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
報告書	50	実技 (発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲	30		

(補足) 報告書の 50%については誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。学習に取り組む姿勢・意欲 50%は、「積極的に意見を述べる」「チームをリードして進める努力をしている」「課題に対して指示が無くても積極的に取り組んでいる」「集合や提出物の時間が守られているか」の4項目について評価する。発表・コミュニケーションは、発表で教員及び学生に評価表を渡し、その点数で評価する。また、外部講師の都合等により、授業の順番は変更する可能性がある。

#### ◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し授業内に返却する。

#### ◆受講上の注意事項及び助言

※臨地実習実施時期は、同一時期ではないため、総合演習 I は不定期に開催する。

事前に掲示板で連絡するので、見逃し等無いよう注意すること。

※臨地実習先により、事前に要求されることが異なるので、施設に合わせた対応が出来るように準備しておくこと。

#### ◆オフィスアワー

受付時間: 随時

受付場所: 臨地実習センター及び、臨地実習担当教員研究室

上記で対応できない場合: 臨地実習センター前のメッセージボードを活用する。

緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。(留守電等)



# 臨地実習 I (給食の運営)

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期

担当者氏名 風見公子 柴田隆一 小林陽子 宮内眞弓 高橋美恵子 佐藤ひろ子

## ◆授業概要

臨地実習 I は、事業所における給食管理の実際を実地において修練し、栄養士・管理栄養士として、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供等に関する知識、技術全般を習得することを目的とする。本実習は、特定給食施設において、実務経験を有している栄養士・管理栄養士に依頼して指導を受けるものであり、給食を通じた実際の社会的活動として行っている。実習施設によって異なるが、共通することは、衛生上および労働安全上絶対事故があってはならない。そのため、「時間の厳守」「熱心な態度」「明確な応答」「最良の健康状態」および「関連教科の十分な理解」をもって実習に臨まなければならない。給食サービスを通じ実社会での栄養教育を経験し、将来の栄養士・管理栄養士としての認識を高め、専門教科の習熟の糧とする。

## ◆到達目標

1. 事業所における給食の理論と実践を結びつけて理解できる。
2. 給食サービスの意義・役割を説明できる。
3. 従業員の衛生管理の重要性について理解でき、実行できる。

## ◆授業計画

回・時間	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	臨地・校外実習の説明会(学内)	実習の概要説明、具体的な準備、手続き等の説明(臨地実習センター)	予習: 総合演習 I で学んだことを復習しておく。(120 分) 復習: 説明会で指導を受けた内容をまとめ、実習ノートに記載する。(120 分)
2	臨地・校外実習の説明会(学外)	臨地校外実習の実習先の担当者による。実習上の説明および諸注意(給食会社、保育所、学校等)	予習: 予定表の実習内容に関連する事項を調べておく。研究テーマについて質問事項等をまとめておく。事前に出された課題があれば作成しておく。(120 分) 復習: 臨地実習ガイダンスで指導を受けた内容をまとめ、実習ノートに記載する。(90 分)
45 時間	実際の給食現場において、給食の運営を中心とした実習を行う。 実習内容は、実習施設によって異なる。	総合演習 I で事業所の事前学習を行う。 実習課題を決め、計画書を作成する。  給食の運営に必要な給与栄養目標量の算出、食品構成表・献立の作成、材料の発注、検収、調理作業(大量調理)、配膳、下膳、洗浄作業、給食サービス提供など栄養士・管理栄養士として具備すべき知識と技能を実地体験によって習得する。 実習期間、実習時間、実習内容は実習施設のシステムに従う。	予習: 予定表の実習内容に関連する事項を事前に調べておく。(60 分) 研究テーマについて質問事項等をまとめておく。(60 分) 復習: 臨地実習ガイダンスで指導を受けた内容をまとめ、実習ノートに記載する。(60 分)
15	実習のまとめ(実習ノート)	実習ノートをまとめる。	予習: 実習ノートの整理をし、報告書作成の準備をする。実習を終えての感想、研究テーマのまとめを記入する。(240 分) 復習: 実習ノートを作成し、提出する。(240 分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習ノートー事業所給食施設ー	東京聖栄大学	臨地実習センター

◆参考書

書名	著者	発行所
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
実習内容 (施設側評価)	40	実習ノート	20
実習内容 (大学側評価)	40		

(補足) 実習ノートの20%については誤字・脱字がなく、実習内容が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。実習内容は施設側の管理栄養士の評価と大学側の教員の評価を40%ずつとし、5段階で評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し授業内に返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・臨地実習は、実習施設によって時期が異なり、不定期に集中的に実施する。  
事前に臨地実習センター前の掲示板で連絡するので、見逃し等無いように注意すること。
- ・臨地実習先により、事前に要求されることが異なるので、施設にあわせて対応出来るように準備しておくこと。
- ・事前ガイダンスから終了ガイダンスまで一貫して行う授業であり、指定された行動をとることが要求される。

◆オフィスアワー

受付時間：随時

受付場所：臨地実習センター及び、臨地実習担当教員研究室

上記で対応できない場合：臨地実習センター前のメッセージボードを活用する。

緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。(留守電等)

## 臨地実習Ⅱ（給食経営管理論分野）

（1単位）（管理栄養学科）

開講時期 3年・前期

担当者氏名 風見公子 柴田隆一 小林陽子 宮内眞弓 高橋美恵子 佐藤ひろ子

### ◆授業概要

臨地実習Ⅱは、「給食の運営」を基本とし、「給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力」が活かされるトレーニングの場である。マーケティングの原理や応用を理解し、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を経験する。本実習は、臨地実習Ⅱと同様、特定給食施設において、実務経験を有している栄養士・管理栄養士に依頼して指導を受けるものであり、給食を通じた実際の社会的活動として行っている。そのため、「時間の厳守」「熱心な態度」「明確な応答」「最良の健康状態」および「関連教科の十分な理解」をもって実習に望まなければならない。給食サービスを通じ実社会での栄養教育を経験し、将来の栄養士・管理栄養士としての認識を高め、専門教科の習熟の糧とする。

### ◆到達目標

1. 給食経営管理の理論と実践を結びつけて説明できる。
2. 給食全般のマネジメントを確認し、説明できる。
3. マーケティングの原理や応用を理解し、説明できる。

### ◆授業計画

回・時間	項目	内容	予習・復習（標準的な所要時間）
1	臨地・校外実習の説明会（学内）	実習の概要説明、具体的な準備、手続き等の説明（臨地実習センター）	予習：総合演習Ⅰで学んだことを復習しておく。（120分） 復習：説明会で指導を受けた内容をまとめ、実習ノートに記載する。（120分）
2	臨地・校外実習の説明会（学外）	臨地校外実習の実習先の担当者による実習上の説明および諸注意（給食会社）	予習：予定表の実習内容に関連する事項を調べておく。研究テーマについて質問事項等をまとめておく。事前に出された課題があれば作成しておく。（120分） 復習：臨地実習ガイダンスで指導を受けた内容をまとめ、実習ノートに記載する。（120分）
45時間	実際の給食現場において、給食全般のマネジメントを行う能力を中心とした実習を行う。 実習内容は、実習施設によって異なる。	総合演習Ⅰで事業所、保育所、学校等の事前学習を行い、実習課題の発見、実習計画書作成などを事前に行い、給食運営や関連の資源を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養う。 知識と技能の統合を実地体験する。	予習：予定表の実習内容に関連する事項を調べておく。研究テーマや経営管理について質問事項等をまとめておく。（120分） 復習：実習ノートの整理をし、経営管理の側面から給食事業をどのように行っているのか理解を深める。研究テーマについて調査結果をまとめ、考察する。（120分）
15	実習のまとめ（実習ノート）	実習ノートをまとめる。	予習：実習ノートの整理をし、報告書作成の準備をする。実習を終えての感想、研究テーマのまとめを記入する。（240分） 復習：実習ノートを作成し、提出する。（240分）



◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習ノートー事業所給食施設ー	東京聖栄大学	臨地実習センター

◆参考書

書名	著者	発行所
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
Nブックス 新版給食経営管理論	岩井達、名倉秀子、松崎政三、 風見公子、他	建帛社

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
実習内容 (施設側評価)	40	実習ノート	20
実習内容 (大学側評価)	40		

(補足) 実習ノートの20%については誤字・脱字がなく、実習内容が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。実習内容は施設側の管理栄養士の評価と大学側の教員の評価を40%ずつとし、5段階で評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し授業内に返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・臨地実習は、実習施設によって時期が異なり、不定期に集中的に開催する。  
事前に臨地実習センター前の掲示板で連絡するので、見逃し等無いように注意すること。
- ・臨地実習先により、事前に要求されることが異なるので、施設にあわせて対応が出来るように準備しておくこと。
- ・事前ガイダンスから終了ガイダンスまで一貫して行う授業であり、指定された行動をとることが要求される。

◆オフィスアワー

受付時間：随時

受付場所：臨地実習センター及び、臨地実習担当教員研究室

上記で対応できない場合：臨地実習センター前のメッセージボードを活用する。

緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。(留守電等)

## 臨地実習Ⅳ（公衆栄養学分野）

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3年・前期～後期

担当者氏名 佐藤ひろ子 小林陽子 風見公子 高橋美恵子 宮内眞弓 柴田隆一

### ◆授業概要

公衆栄養活動を推進する機関としての保健所、保健センターで行われている業務に参加することにより、専門職として実際に地域住民の健康を保持・増進するためのプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントすることを学習する。特に地域の健康課題の改善に向けて、どのような活動が行われているかを理解することが重要である。また、保健・医療・福祉・介護等関係機関との連携・協働を通して、その重要性を理解し、地域保健領域において実践・連携できる人材の育成を図る。本実習は、実務経験を有している教員及び保健所、保健センター管理栄養士が指導し、実習を通じた実際の公衆栄養活動を経験する。

### ◆到達目標

1. 保健所、保健センターの役割・業務の概要と両者の関係を説明できる。
2. 他職種との役割と業務内容を理解し、連携の重要性を説明できる。
3. 地域住民を対象とした健康教育、例えば「健康・栄養教室」等の企画、広報、実施、評価、フィードバック等一連のプロセスを概説できる。
4. 健診業務、特に母子保健業務から栄養教育に至るまでのプロセスとその中での管理栄養士の役割を説明できる。
5. 地域の関係機関の育成・支援のプロセスを概説できる。

### ◆授業計画

回・時間	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	臨地・校外実習の 事前学習(学内)	①臨地実習施設の概要・実習内容等について理解する。	予習：実習する施設で行われている事業等について調べ、各自の研究課題を決める。(120分) (事前に出された課題があれば作成する。)
2		②実習に必要とされる専門知識や技術等について学習する。	復習：事前に学習する内容をノートにまとめる。(120分)
45 時間	臨地・校外実習(特別区、保健所・保健センター)地域社会における栄養・健康問題の現状等について理解を深めるとともに、保健所や保健センターにおける管理栄養士の業務と公衆栄養活動の実際について学習する。	①地域の栄養行政について、企画・実施・評価とおしたマネジメントのあり方等について学ぶ。 ②保健所における行政栄養士の業務の実際について学ぶ。 ③保健センターにおける行政栄養士の業務(栄養相談・指導等)に同席して、栄養指導の実際について学ぶ。 ④健康日本21(第三次)、メタボリック・シンドローム対策、第4次食育推進基本計画の取組み等について学ぶ。	予習： ①各自の実習課題についてまとめる。(120分) (事前課題案の修正作業を行い課題を完成させる。) ②実習先保健所及び保健センターの業務について調べる。(120分) 復習： ①実習ノートの整理をし、報告書作成の準備をする。(120分)
15	実習のまとめ (実習ノート)	実習ノートをまとめる。	予習：実習ノートの整理をし、報告書作成の準備をする。実習を終えての感想、研究テーマのまとめを記入する。(240分) 復習：実習ノートを作成し、提出する。(240分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習ノート	東京聖栄大学	臨地実習センター

◆参考書

書名	著者	発行所
健康日本 21(第三次)		厚生労働省
第4次食育推進基本計画		農林水産省
公衆栄養学	古畑公 他編著	光生館
公衆栄養学実習	鈴木三枝、中谷弥栄子 他著	第一出版

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
実習内容 (施設側評価)	30	実習ノート	20
実習内容 (大学側評価)	40	実習態度	10

※補足 実習内容は施設側の管理栄養士の評価 30%と大学側の教員の評価を 40%とし、5段階で評価する。実習内容(大学側)については、実習前から実習報告会終了までを通して、積極的に関わったか、班員同志の協力が図られたかについて5段階で評価する。また、実習ノートの20%については誤字・脱字がなく、実習内容が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。実習態度については、出欠、遅刻等があれば減点する。

◆事前ガイダンスから終了ガイダンスまで一貫して行う授業であり、指定された行動をとることが要求される。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメント等を記載し、返却する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・臨地実習実施時期は、実習施設により異なり、同一時期ではないため、臨地実習Ⅳは不定期(原則6日間)に開催する。
- ・事前に臨地実習センター前掲示板で連絡するので、見逃し等無いように注意すること。
- ・臨地実習先により、事前課題の内容が異なるので、施設にあわせて対応出来るように準備しておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間：随時

受付場所：臨地実習センター及び、臨地実習担当教員研究室

上記で対応できない場合：臨地実習センターのメッセージボードを活用する。

緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。(留守電等)

# 特別支援教育

(1 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
担当者氏名 石橋 裕子

## ◆授業概要

小学校等で配慮の必要な子どもへの支援経験のある担当者が、管理栄養学科のディプロマポリシーである『専門分野の知識を習得し、栄養教諭として活躍できる能力』を身につけることを目指して展開する。

特別支援教育の理念や考え方を学ぶことで、各障害の特性及び支援方法、特別支援教育に関わる学校内外の職種や関連機関等との連携等について理解する。さらに、障害はないが特別な教育的ニーズについて概観し、支援の方法を考察する。

授業は、自宅での予・復習時に作成した自学ノート、教科書、ワークシート、振り返りシート等を使用し、4 人 1 グループを基本とした協同学習で学ぶ。協同学習の詳細は第 1 回で説明する。

## ◆到達目標

1. 特別支援教育の理念や子どもの教育を支える制度や教育上の仕組みを理解できる。
2. 発達障害及び障害はないが特別な教育的ニーズをもつ児童生徒への支援と指導の在り方について検討できる。
3. 特別支援教育にかかわる学校内外の職種や様々な福祉等関連機関との連携を考えることができる。

## ◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	講義概要、協同学習での学び方、特別支援教育の理念や仕組みを知る (教科書 第 1 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
2	発達障害 1	特別の支援を必要とする児童生徒の特性を知る (教科書 第 2 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
3	発達障害 2	理解しにくい、聞こえにくい見えにくい等発達障害の疑似体験を通して、支援の方法等を異検討する (教科書 第 2 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
4	特別支援教育と校内支援体制	小中高校での特別支援教育の現状を知る (教科書 第 4・6～9 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
5	教育課程の中の特別支援教育	特別支援学級、通級による指導、特別支援教室を理解する (教科書 第 3・11 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
6	特別支援教育に関わる人たちと関連機関	特別支援教育コーディネーター・養護教諭・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー、児童相談所・子ども家庭支援センター等との連携を知る (教科書 第 5・12 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
7	特別支援学校	特別支援学校の教育・センター的機能とその役割を知る (教科書 第 10 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
8	様々な障害	情緒障害・知的障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱・視覚障害・聴覚障害・重複障害等の理解と支援方法を検討する (教科書 第 10 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
9	特別の教育的ニーズ	障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒を知り、支援方法を検討する (教科書 第 13～14 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
10	他機関との連携 1	児童相談所一時保護施設・児童養護施設の特徴等と利用児を知る (教科書 第 13～14 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
11	他機関との連携 2	乳児院・母子生活支援施設の特徴等と利用児を知る (教科書 第 13～14 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)
12	個別の教育支援計画・個別の支援計画	学級担任等が立案する支援計画を知る (教科書 第 2・5・10 講)	予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入 (60 分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60 分)

13	事例検討1	授業中に教室外へ飛び出しをする児童への対応を検討する (教科書 第2～3講・6～9講)	予習 学習指導案を立案する (60分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60分)
14	事例検討2	自閉的傾向のある児童への対応を検討する (教科書 第2～3講・6～9講)	予習 学習指導案を立案する (60分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60分)
15	総括	成果と課題をまとめ考察する (教科書 第15講)	予習 これまでの学びが説明できるようにまとめる (60分) 復習 ワークシートに追記する等して、学びを自学ノートにまとめる (60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
「よくわかる！教職エクササイズ 第5巻 特別支援教育」	石橋裕子・林幸範	ミネルヴァ書房

◆参考書

書名	著者	発行所
「幼稚園教育要領解説」	文部科学省	フレーベル館
「保育所保育指針解説書」	厚生労働省	フレーベル館
「幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説」	文部科学省	フレーベル館
「小学校学習指導要領解説 総則編」	文部科学省	東洋館出版社
「中学校学習指導要領解説 総則編」	文部科学省	東山書房
「高等学校学習指導要領解説 総則編」	文部科学省	東山書房
「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 (幼稚園部・小学部・中学部)」	文部科学省	開隆堂出版
「特別支援学校学習指導要領解説 総則編 (高等部)」	文部科学省	海文堂出版

◆関連科目

教育相談の理論と方法 生徒指導の理論と方法

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	70	小テスト	
レポート (振り返りシート)	20	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足) \*学習に取り組む姿勢・意欲については、チームでの学びに取り組む姿勢、レポート作成および課題のプレゼンなどの取り組みを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・レポート (振り返りシート) には、毎時間コメントを記して返却する。
- ・予習がしやすいよう、次時の学修事項を前時に周知する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・予・復習時には自学ノートを作成し、毎時間の学びを視覚化する。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組む。
- ・私的なスマホ操作等は禁止する。

◆オフィスアワー

受付時間：授業後

受付場所：授業教室

上記で対応できない場合：yuishibashi@ntu.ac.jp 宛のメールで対応



# 教育相談の理論と方法

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 3 年・前期  
 担当者氏名 有村久春

## ◆授業概要

本講義では、教育相談の基本的な考え方とその具体的な指導の在り方を学ぶ。教育相談は、「子供の人格的発達を援助することを目的とする機能」であり、すべての子供を教育相談の対象とする。特別な課題のある子供への援助だけではない。子供個々の発達のあり様に即して、具体的なかかわりと援助を行うものである。

とりわけ、教師の教育的な理解と指導姿勢に加えて、「傾聴」「共感」「受容」「対決」するなどのカウンセリングの考え方と態度を形成する。このことは、子供の全人的発達に大きく寄与するものである。

これらの考えをふまえ、本講義ではとくに学校における教育相談の理論と方法について学校現場の実際に照らしながら学修を深める。その具体的な編成と展開が学校教育の中心的な役割であることを修得する。文部科学省が公示 (h29.3) している小学校学習指導要領 (とくに総則の第 4) などにも学び、子供の人間関係の形成や教師の学級経営の充実そして個々の子供に応じるカウンセリングなどの在り方を学ぶ。

授業方法としては、栄養教諭を目指す学生自らが自分の意見をプレゼン発表の機会をもち、相互にディスカッションしながら主体的・対話的に学ぶ場を重視して構成する。

## ◆到達目標

1. 日頃からの確かな子供理解に基づく相談活動の在り方を体験的に学ぶことができる。
2. 教師の特性とくに子供と関わり合う学びを活かした学修をすることができる。
3. 各学校における教育相談体制 (態勢) の在り方をチームで運営する考え方を学ぶことができる。
4. カウンセリングの考えを活かし、自己理解および人間理解を深求することができる。
5. 教育相談の基本原則を踏まえた栄養教諭の役割を理解できる。

## ◆授業計画

\* 1~15 回の学びを学生の学びに即しながら研究的に展開する。

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	オリエンテーション、学校教育と教育相談の基礎理解	(オリエンテーション) 教育相談の語義の理解、自らの体験を語る	予習 シラバスを読んでおく (60 分)
			復習 自分の考えと体験をもとに、教育相談の意味をノートに取りまとめる (90 分)
2	生徒指導と教育相談の同一性と相違性	カウンセリングとガイダンスの考え方とその相互性を学ぶ	予習 教育相談の考え方の基本を描くテキストの「まえがき」を読む (90 分)
			復習 「カウンセリング」と「ガイダンス」について、自分の言葉でまとめる (60 分)
3	教担任教師と教育相談の担当者の役割	組織としての役割や研修企画実施の在り方を学ぶ	予習 テキスト p89~を読む (90 分)
			復習 教育相談担当者の役割についてまとめる (60 分)
4	子供の存在と教育相談	21 世紀を生きる子供の課題について、具体的な例をもとに考える	予習 テキスト p1~を読む (90 分)
			復習 生きる力についてまとめる (60 分)
5	教育相談の考え方	機能的な教育相談、カウンセリングの考えなど	予習 テキスト p14~の内容を読む (90 分)
			復習 教育相談を意味づける (60 分)
6	栄養教諭の立場・役割と教育相談	栄養教諭の専門性に照らして、具体的な相談例などを学ぶ	予習 テキスト p31~を読む (60 分)
			復習 8 つの基本原則を記述する (90 分)
7	スクールカウンセラー (SC) の活用	SC の専門性と活用方法および組織態勢への参画を学ぶ	予習 テキスト p20~を読む (90 分)
			復習 SC の役割をまとめる (60 分)
8	管理職と教育相談	具体的な事案の報告・連絡・相談の在り方を学ぶ (栄養教諭の立場)	予習 具体的な相談例を調べる (90 分)
			復習 例を栄養教諭としてまとめる (60 分)
9	事例研究法の在り方	ケースカンファレンスの実際を学ぶ (栄養教諭がみる具体ケース)	予習 テキスト p173~を読む (60 分)
			復習 栄養教諭の指導法をまとめる (90 分)

10	面接演習、ロープレイング演習	カウンセリングの理論をベースにした演習で学び合う	予習 テキストp14～を読む (90分)
			復習 自分なりの考えをまとめる (60分)
11	教育相談の校内研修の進め方	その実際場面で相談の在り方と研修のPDCAのサイクルを学ぶ	予習 テキストp94～を読む (90分)
			復習 特色例をレポートにまとめる (90分)
12	カウンセリング基礎理論①	とくに、ロジャースの自己理論によるカウンセリングを学ぶ	予習 テキストp14～を読む (90分)
			復習 自己理論についてまとめる (60分)
13	カウンセリング基礎理論②	とくに、フロイトの精神分析の考えを中心に人間の存在を学ぶ	予習 テキストp16～を読む (90分)
			復習 精神分析についてまとめる (60分)
14	不登校、いじめ、暴力などの事例研究	とくに栄養教諭が直面するケースを学び、その対応を研究する	予習 テキストp124～を読む (90分)
			復習 具体例についてまとめる (60分)
15	キャリアカウンセリングの進め方、講義のまとめ	子供の将来や生き方に関する教育相談の在り方を探究する	予習 これまでの講義内容を読み返す (90分)
			復習 テキストと講義ノートの内容を理解する(テストの準備を行う) (90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
『新訂版 学級教育相談入門』	有村久春	金子書房、2017 (第2刷発行)

◆参考書

書名	著者	発行所
『小学校学習指導要領解説 総則編』 h29.7	文部科学省	株式会社東洋館出版社

\* 必要な資料を随時配布する。

◆関連科目 「教育原論」「生徒指導の理論と方法」

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	50%	小テスト	10%
レポート、プレゼン発表	20%	実技(発表・コミュニケーション)	10%
学習に取り組む姿勢・意欲	10%		

(補足) \* プレゼンの機会や場、学習に取り組む姿勢・意欲については、授業内容への問い(相互質問)に積極的に応えること、レポート作成および課題のプレゼンなどに取り組むことを評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

- ・プレゼン発表やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・学生が記録したレポートをコピーし、受講学生全員に配布する。相互の学び合いと共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に授業に参画し、疑問点や質問事項を提案すること。
- ・予習や復習を十分に行う。必要なプレゼン発表や課題レポートに意欲的に取り組むこと。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組むこと。

◆オフィスアワー

- ・受付時間: 原則として、火曜日、水曜日、金曜日の昼休み(12:10~12:50)
  - ・受付場所: 教育学第1研究室(4号館)
- 上記で対応できない場合: 研究室入口の伝言板に用件をメモすること。

# 学校ボランティア (2単位) (管理栄養学科)

開講時期 2・3年・前期・後期  
 担当者氏名 有村久春、田中広美、嶺井正也

## ◆授業概要

本講義では、学校ボランティアの意義や内容について学校教育の実際に触れて学ぶことを基本とする。その際、葛飾区内の小学校において、2年次の9月と2月の1週間ずつ計2週間のボランティア体験を行う。

その主な内容は、①事前学習としてボランティアの意義や内容を学ぶ、配置校への事前訪問（あいさつ、校内参観、給食時間の参観など）、②ボランティアの実際体験（配置学校の計画による。例：学級担任・教科指導の補助、給食時間の補助、放課後の学習相談活動、放課後遊びサポート、学校行事の補助、部活動の補助、障害のある子供の学習・学校生活への支援など）、③事後学習としてまとめのレポート作成・提出、配置校への礼状（あいさつ）などである。また、まとめとして報告発表会も予定する。

## ◆到達目標

1. 学校でのボランティア活動を通して、栄養教諭の立場から学校教育の実際とその在り方を実践的に学ぶことができる。
2. 学生自らが自発的に学校教育に関する課題を見出し、具体的なボランティア体験を通して实际的・体験的に学修することができる。
3. 4年次に履修する教育実習に向けて、教職への自己の適性を知る機会とすることができる。

## ◆授業計画

\* 具体的な学修計画は別途作成して、授業時に配布する。

回	項目	内容	予習・復習 (標準的な所要時間)
1	事前学習① 学校ボランティアの意義	学校ボランティアの意義・内容の理解、学習への意欲など	予習 シラバスを読んでおく (60分)
			復習 学校ボランティアの意義・内容を理解する。ノートにまとめる。(30分)
2	事前学習② 配置校の理解	葛飾区立の小学校の情報 (HP) をもとに配置校の教育状況を知る	予習 HP等で配置校の情報を得る (60分)
			復習 配置校の理解を深め記録する (90分)
3	事前学習③ 活動内容の事前準備	事前訪問、あいさつ、ボランティア活動の内容理解	予習 事前訪問の心構えをつくる (60分)
			復習 配置校の状況を知りまとめる (60分)
4	ボランティアの実際①	配置校の計画によるボランティア活動 (担任の補助、給食の援助など)	予習 持ち物等の準備をする (90分)
			復習 活動内容をまとめる (60分)
5	ボランティアの実際②	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
6	ボランティアの実際③	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
7	ボランティアの実際④	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
8	9月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする (60分)
			復習 レポート内容の確認と記録 (60分)
9	ボランティアの実際⑤	配置校の計画によるボランティア活動 (担任の補助、給食の援助など)	予習 持ち物等の準備をする (60分)
			復習 活動内容をノートにまとめる (90分)
10	ボランティアの実際⑥	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
11	ボランティアの実際⑦	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)
12	ボランティアの実際⑧	(同上)	予習 (同上)
			復習 (同上)

13	2月の活動体験のまとめ	ボランティア学習のレポート作成、配置校への礼状など	予習 活動内容の資料整理をする (90分)
			復習 レポート内容の確認・記録 (60分)
14	事後学習① まとめのレポート	まとめのレポート作成、報告の準備	予習 活動内容の全体を振り返る (90分)
			復習 報告内容の確認・記録 (60分)
15	事後学習② 報告会	学校ボランティアの体験と成果を学び合う	予習 報告内容の整理と準備をする (60分)
			復習 全体の成果の自己確認・整理 (90分)

\* 9月・2月のボランティア実習日 (計2週間)

第1回 → 9/9 (月) ~ 9/13 (金) 第2回 → 2/17 (月) ~ 2/21 (金)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
特に指定しない *随時配布資料を用意する		

◆参考書

書名	著者	発行所

必要な資料を随時配布する。

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	30%	実技 (発表・コミュニケーション)	40%
学習に取り組む姿勢・意欲	30%		

(補足) \*学習に取り組む姿勢・意欲については、ボランティア活動への実際およびレポート作成、プレゼンなどにどのように取り組んだかを評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・あいさつ文やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・レポート等をコピーし、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。また、発表会に活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に学校ボランティアの学習に参画し、疑問点や質問事項を提案すること。
- ・必要な課題レポートに意欲的に取り組むこと。
- ・自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組むこと。
- ・配置校の指示を積極的に理解し、ボランティア体験を日々の学修に生かすこと。

◆オフィスアワー

- ・受付時間： 原則として、月曜日、水曜日、金曜日の昼休み (12:10~12:50)
- ・受付場所： 4号館：教職課程センター、担当教員の教育学研究室
- \* 上記で対応できない場合： 研究室入口の伝言板に用件をメモすること。